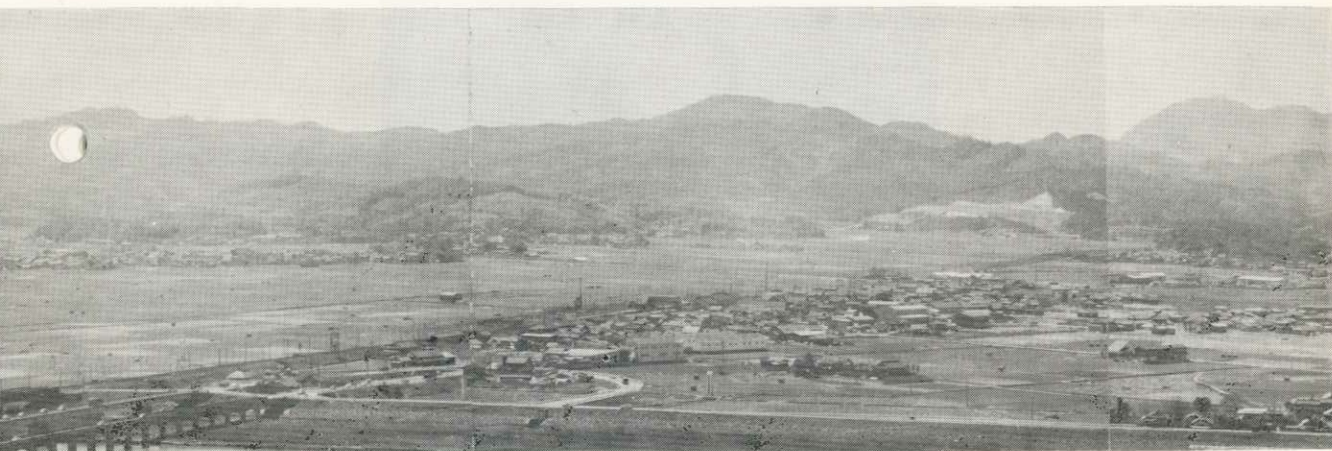


おん が ちよう  
遠 賀 町

町 勢 要 覧

島門・浅木両村合併40周年  
町制施行5周年  
記念特集号



遠賀川駅附近

も く じ

発刊にあたって .....	1	教 育 .....	31
沿 革 .....	2	保 健 衛 生 .....	33
自 然 .....	5	民 生 .....	35
人 口 .....	7	消 防 ・ 治 安 .....	37
行 政 .....	11	水 道 .....	39
財 政 .....	18	土 木 .....	40
住宅・工場団地 .....	22	郷 土 史 .....	42
産 業 ・ 経 済 .....	24	名 所 ・ 史 跡 .....	44
交通・通信・文化 .....	28	町 民 生 活 .....	50
		町 内 案 内 .....	51



### 発刊にあたって

本町は北部九州の大河川遠賀川の下流に開けた広大な穀倉地帯であります。

昭和4年浅木・島門両村が合併して遠賀村となり、以来、産業・経済・文化・交通など北九州近郊農村として幾多の進展をとげてまいりました。

戦後目ざましく復興した、北九州地帯の重工業・国鉄電化などの発達に伴ない、従来の純農村としての形態様相は、年と共に漸次変ぼうをきたし、昭和39年に町制を施行するに至り、北九州都市圏域として地理的、経済的にも重要性を帯びてきました。

こゝに、わが「遠賀町」の合併40周年及び、町制施行5周年を迎えるに当り、町民各位をはじめ関係方面の方々から、日頃寄せられた数々の御努力に対し、心から敬意を表するものであります。この記念すべき年に本町の永い伝統と歴史を回顧し、移り変わる町勢の大要をまとめ記念号として広く一般にお知らせできることは、町の将来の発展の上からも極めて意義のあることであります。

本書はそうした遠賀町の発展に心を寄せていたゞく何かのお役にたてば幸いに存じます。

昭和44年4月1日

遠賀町長 小川登一郎

## 沿革

本州と九州は交通機関の発達、関門トンネル、架橋などにより、その距離感は益々縮まりつゝある。九州の動脈鹿児島本線で門司から博多に向うと、やがて遠賀川を渡り広漠たる平野が開ける、こゝが遠賀町である。鹿児島本線は町を二分して通り抜けている。

遠賀町は遠賀川の下流、左岸に沿って開ける東西5 km、南北9 km、面積22.41km<sup>2</sup>の平坦な町であり遠賀川がもたらした土砂の堆積が、この辺りの平野を形づくったのである。考古学の教えるところによると、周辺に遠賀川式土器と名づけられる土器を持つ文化圏があったという。町のあちら、こちらに津・沖・島・渡・崎などの水と海につながる地名を残しているのは一面に湾が渦をなして、漁撈に都合がよかったことを思わせる。

今でも土を堀れば貝がらが出るし、耕地を堀れば深いソーダ層（泥炭層）が表われる。

この遠賀町は、古くは、島門の駅跡であり、延喜式(927)にも記されているとおおり、太宰府から京にのぼるには宗像郡鐘崎から此の島門を経て、今の上津役に向っていたという。このために駅馬23頭をおいていたとある。そこに奈良朝時代の大宮人の姿を思い浮べることができる。

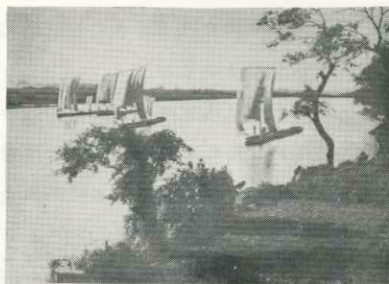
維新後、町村制の実施により、明治22年に北部6ヶ村を以て島門村を、南部4ヶ村を以て浅木村を編成したが、更に昭和4年4月土木、水利等に密接な関係を有するのみならず、人情風俗も同一の両村が合併して遠賀村となったのである。

純農として牧歌的な遠賀村は爾来しばらく続いたが主要産業である。農業も、第一次大戦前後から活発となった、北九州工業地帯の影響を受け農業人口は漸減し、今では通勤者は約1,600人を数え専業農家は減少の一途を辿っている。このときに当り農業の近代化を促進し、今後の安定した農業の基礎造りをするには、極めて意義を有するものである。

又大正年間から起った炭坑事業も、エネルギー革命の波は防げず、昭和37年2月三菱新入鉱業所鞍手炭坑の閉山によって遠賀町から姿を消した。残された失業者の厚生と跡地の振興については、緊急失業者就労対策事業を起しての道路建設、産炭地域振興事業団による178,556m<sup>2</sup>の整地と企業の誘致が計画され、以来、新西工業KK、マークス工業など年々企業立地も進み、地域産業として大きく育ちつゝある。

これからの遠賀町は、北九州・福岡両都市の発展と相いまって、都市近郊として益々その飛躍的發展と共に健全な農業の伸長が期待されるわけである。

明22.4.1 昭4.4.1 昭39.4.1



往時の遠賀川風景  
寛永5年黒田忠之が命じて遠賀川を堀ったという

(合併40周年)  
(町制施行5周年) 遠賀町の年表

年 月	事 蹟	年 月	事 蹟
昭和4年4月	浅木村と島門村合併 遠賀村誕生	昭和23年	農業協同組合法により遠賀村農業協同組合を設立
" 4年	老良区を浅木小学校の通学区とする	" 23年	遠賀川駅急行列車停車駅となる
" 4年	早魃あり	" 23年9月	遠賀中学校校舎第1期工事竣工(8教室)
" 5年	神田川開通	" 24年4月	島門小学校体育保健の研究について県の実験学校となる(3年間)
" 6年	国道完成	" 24年6月	西川堤防決壊
" 6年6月	遠賀村役場庁舎完成	" 24年10月	遠賀中学校校舎第2期工事竣工
" 7年	芦屋軽便鉄道事業不振のため廃止	" 25年4月	遠賀川保育園設置
" 7年9月	老良小学校を浅木校に合併尋常4年以下を以て老良分教場設置	" 26年	ケイト台風により浅木・島門両小学校の改築始まる
" 8年	遠賀村産業組合を設立	" 26年6月	遠賀中学校校舎第3期工事竣工
" 8年	県失業対策事業として西川改修工事始まる(島津地区より上流迄4ヶ年計画)	" 28年2月	遠賀町南部地区西鉄バス開通(直方一折尾線)
" 8年3月	老良分教場廃止	" 28年4月	遠賀中学校 文部省の産業教育研究校の指定を受ける
" 9年6月	大早魃寿命堰ネコ掛け及び塩田堰の築堤	" 28年	虫生津の鉦害復旧始まる
		" 28年6月	遠賀川堤防決壊大洪水(植木町中ノ江)
	遠賀川寿命堰のネコ掛け風景	" 29年	島門・浅木両小学校改築
" 10年	虫生津に金丸鉱業所開鉱	" 29年	浅木の鉦害復旧始まる(50.67ha)
" 10年	大降雨のため稲苗腐蝕し宮崎・鹿児島から苗移入	" 29年3月	郵便局舎 役場横から現在位置(大字広渡)に移転
" 11年	農林省の経済更生指定を受け全村学校を開校		
" 13年5月	合村10周年記念式を行う		遠賀川郵便局
" 13年5月	農村振興道路建設(鬼津線)	" 29年12月	合村25周年記念式
" 14年	大早魃あり	" 30年	木守の鉦害復旧始まる(25.5ha)
" 15年	金丸鉱業所にかわって東邦炭鉱が経営	" 30年5月	遠賀村公民館別館落成
" 16年4月	国民学校令により島門・浅木両小学校を国民学校と改称	" 32年2月	遠賀村簡易水道浄水場完成
" 16年	大降雨 役場庁舎の基礎を上げる	" 30年3月	遠賀川大橋落成 (中員6 長+375m 工事費164,091,000円)
" 16年	遠賀村農会役場横から現在位置(大字広渡)に移転		
" 18年	遠賀村国民健康保険組合を設立		遠賀川大橋
" 18年12月	島門校舎1棟4教室に陸軍部隊駐屯	" 30年4月	山びこ保育園設置
" 19年	農会並びに産業組合をもって農業会を設立	" 30年5月	遠賀中学校女生徒制服制定
" 19年	東邦炭鉱三菱鉱業株式会社に吸収される	" 31年	農山漁村振興計画特別指定地域となる
" 20年	国民健康保険組合解散	" 32年	青年研修所開設
" 21年6月	遠賀川駅にRTO開設	" 32年	老良土地改良事業開始(32ha)
" 22年3月	芦屋線開通(占領軍用)	" 33年3月	遠賀中学校体育館落成
" 22年4月	遠賀中学校開校(浅木校に3学級島門校に4学級を分散設置児童数296名)	" 33年4月	浅木小学校校の理科教育における実験観察指導の研究委嘱校となる
" 22年5月	遠賀中学校が県から週5日制実験学校の指定を受ける	" 34年4月	南部保育園設置
" 22年12月	遠賀川駅全面改築		
			
	現在の遠賀川駅		

年 月	事 蹟	年 月	事 蹟	
昭和35年	役場庁舎増築 ( 村長室・助役室・土木室 )	昭和41年2月	農村集団電話開設 ( 317戸加入 )	
" 35年	島津, 土地改良事業を行う ( 25ha )	" 41年2月	町道友田線開通	
" 35年8月	養老施設「遠賀静光園」設置51名収容	" 41年8月	町北部 ( 島津, 若松, 鬼津, 尾崎地区 ) 水道布設事業開始 ( 昭和45年完成予定 )	
" 35年9月	遠賀川駅特別待合室 ( RTO ) 閉鎖	" 41年9月	遠賀中学校プール完成	
" 35年12月	中間市水道から上水を分水契約	" 41年10月	第2次役場事務改善を行う	
" 36年2月	浅木校 理科教育表彰を受け記念碑を建てる	" 41年6月	遠賀町公民館完成	
" 36年4月	島門小学校 道徳教育の研究について県の委嘱校となる ( 3ヶ年間 )	" 42年4月	遠賀川駅前団地造成開始 ( 民営 )	
" 36年6月	国鉄芦屋線廃止	 <p>遠賀川駅前住宅団地造成状況</p>		
" 36年6月	国鉄電車開通			
" 36年7月	九州初のヘリコプター防除実施 ( 水田800ha )			
" 37年2月	三菱鞍手炭坑閉山			
" 37年	西川改修工事 ( 浚濬 ) 始まる			
" 37年12月	緊急失業者就労対策事業を起し山手線道路改良工事着手			
" 38年3月	役場庁舎改造			
" 38年4月	第1次役場事務改善を行う			
" 38年8月	島門小学校防音建築始まる			
" 38年10月	産炭地域振興事業団 虫生津団地造成起工			
" 38年10月	遠賀川駅前信号設置			
" 38年10月	三菱鉱業株式会社新入鉱業所閉山			
 <p>好景気当時の炭坑住宅街虫生津炭坑二区</p>	" 39年3月		鞍手町遠賀町水道組合発足	 <p>西川湛水防除排水機場</p>
	" 39年4月		町制施行をする	
	" 39年4月		遠賀郡農業協同組合の発足 ( 郡内農協合併 )	
 <p>遠賀郡農業協同組合</p>	" 43年4月	町指定金融機関設置		
	" 43年4月	公営企業法による上水道事業開始		
	" 43年8月	国道3号線バイパス ( 遠賀区間 ) 用地交渉開始		
	" 43年10月	遠賀川電話自動交換局建設工事着工		
 <p>遠賀川自動電話交換局建設状況</p>	" 39年4月	町全域に亘る国土調査事業開始 ( 完成予定昭和45年 )		
	" 40年	県立遠賀農芸高校誘致決定		
	" 40年8月	遠賀中学校防音校舎建築始まる ( 41年完成 )		

# 自然

## 位置と地勢

遠賀町は福岡県の北部（福岡市40 km, 北九州市8 km）に位置し、東は水巻町, 南は中間市・鞍手町, 西は岡垣町, 北は芦屋町に接し昭和39年4月に町制施行した新しい町である。

町のは、中央部を鹿児島本線が東西に走り、町域を南北に二分している。町の中央部遠賀川地区は、近年市街地化が進み町経済文化の中心となっている。南端虫生津地区には県下でも屈指の四区画からなる（中間市・鞍手町・遠賀町）大型工業団地（本町は虫生津団地を有している。）の企業誘致が進められている。

本町の面積中大部分は平野で、わずかに西北につらねた山林丘地があるのみである。遠賀平野の中核をなす本町農業は米作を中心としてその近代化が進んでいる。

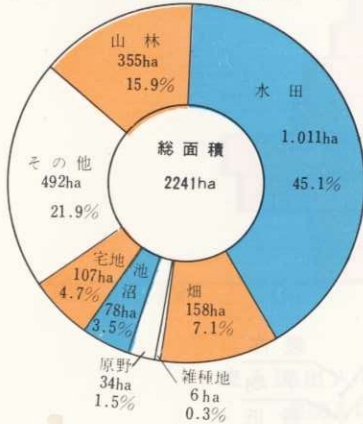
面積	22.41 km <sup>2</sup>
周囲	19.48 km
東西	5 km
南北	9 km

極東	東経	130°38'24"
極西	東経	130°34'22"
極南	北緯	33°55'07"
極北	北緯	34°1'55"

遠賀町の位置



土地の内訳  
(税資料による)



# 気 象

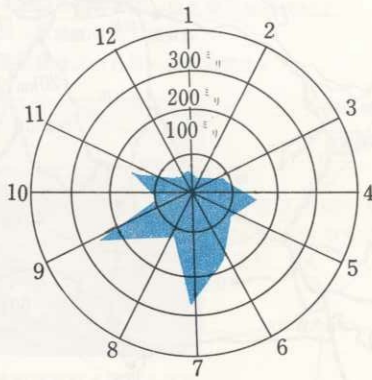
## 気 象 概 況

(昭和40年～42年迄3ケ年間平均)

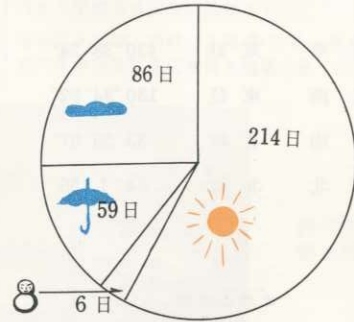
月	気 温 (°C)			降 雨 量 (mm)	風 速 (m / S)		平均湿度 (%)	降雪量 (延mm)	天 候 日 数			
	最高	最低	平均		最大	平均			晴	くもり	雨	雪
1	8.9	1.0	5.1	65.5	22.5	4.9	71	6.3	18	6	5	2
2	10.3	2.5	6.4	54.3	20.0	4.4	61	2.3	12	9	4	3
3	13.5	4.2	8.9	119.0	21.0	4.5	71		18	8	5	
4	17.1	8.9	13.1	175.0	19.5	4.3	76		17	7	6	
5	22.3	13.3	17.8	136.3	18.5	3.8	78		21	6	4	
6	25.2	14.3	21.1	198.0	17.0	3.2	81		18	7	5	
7	29.9	23.0	26.1	258.0	17.5	3.2	82		15	9	7	
8	32.3	24.1	27.7	87.0	18.0	3.2	78		20	6	5	
9	23.5	18.2	22.3	236.8	22.5	7.3	78		20	6	4	
10	22.1	12.3	17.2	63.2	18.0	3.6	75		19	7	5	
11	17.4	7.6	12.6	147.8	19.5	3.8	75		18	8	4	
12	10.0	2.9	6.4	49.1	—	4.0	73	3.7	18	7	5	1
年平均 (計)	19.8	11.3	15.4	1,590.4	24.0	8.0	73	12.3	214	86	59	6

注) 観測場所 航空自衛隊芦屋基地

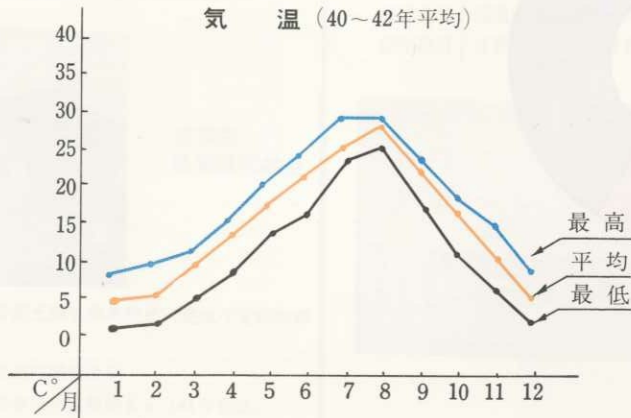
降 雨 量 (40~42年平均)



365日のお天気 (40~42年平均)



気 温 (40~42年平均)





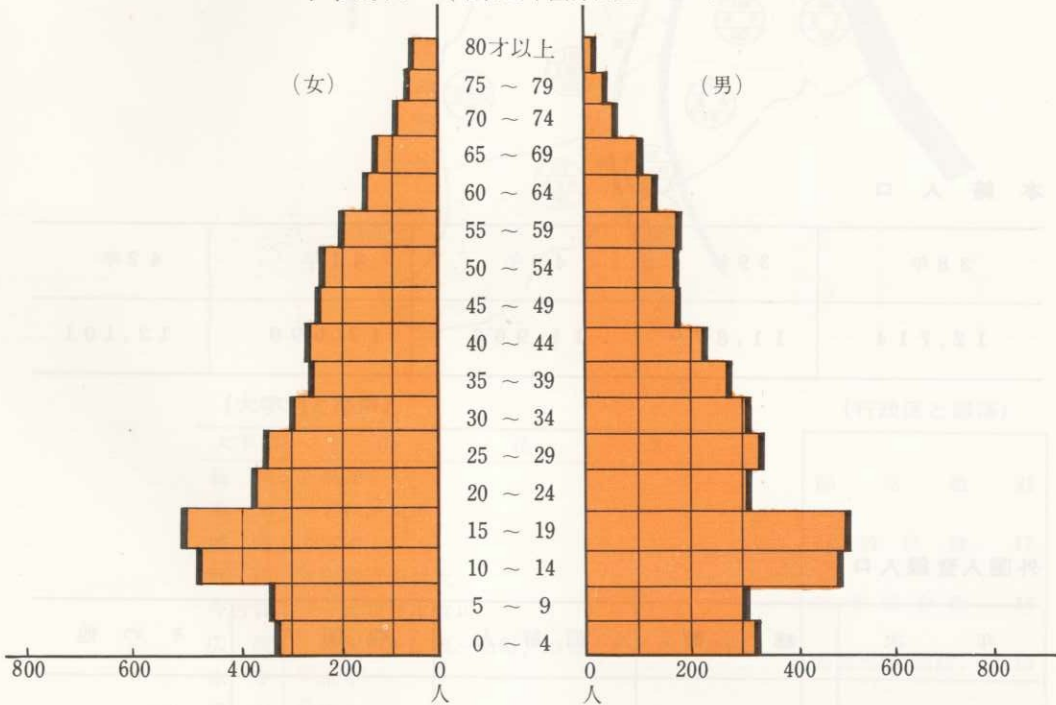
# 人 口

## 人 口 の 推 移

年 次	人 口			世 帯 数	1 世 帯 あ た り 人 員	人 口 密 度 (1km <sup>2</sup> あ た り)	摘 要
	総 数	男	女				
昭和 5 年	5,555	2,710	2,845	955	5.8	247.8	国 調
" 10 年	5,986	2,979	3,007	1,045	5.7	267.1	"
" 15 年	9,553	4,904	4,649	1,774	5.4	426.2	"
" 22 年	9,183	4,506	4,677	1,692	5.4	409.7	"
" 25 年	10,181	4,955	5,226	1,877	5.4	454.3	"
" 30 年	10,115	4,506	5,209	1,848	5.4	451.3	"
" 35 年	9,505	4,590	4,915	1,861	5.1	424.1	"
" 40 年	8,592	4,106	4,486	1,893	4.5	383.4	"
" 41 年	9,011	4,303	4,708	2,043	4.3	402.0	町 調
" 42 年	9,056	4,379	4,677	2,169	4.1	404.1	"
" 43 年	8,940	4,664	4,276	2,166	4.1	398.9	"

(注) 町調は4月1日現在人口を表わす。

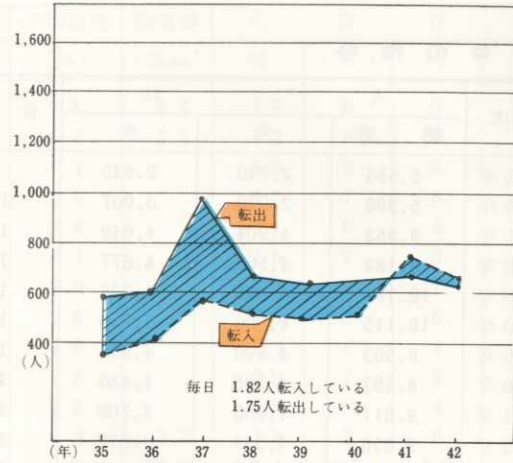
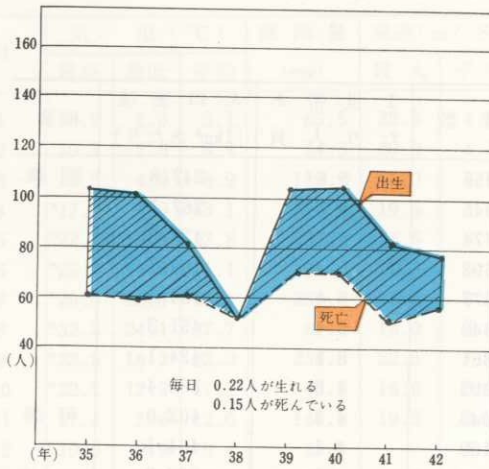
年 令 別 人 口 (昭和40年国勢調査による)



流 入 流 出 人 口 (昭和40年国勢調査による)

昼間人口	①-②-③+④+⑤	7,666人
① 夜間人口		9,505人
② 町外に通勤する人		1,512人
③ 町外に通学する人		445人
④ 町外から通勤する人		111人
⑤ 町外から通学する人		7人

## 人口の動態



※昭和42年 死産11 婚姻70 離婚12

## 本籍人口

38年	39年	40年	41年	42年
12,714	11,879	11,968	12,099	12,101

## 外国人登録人口

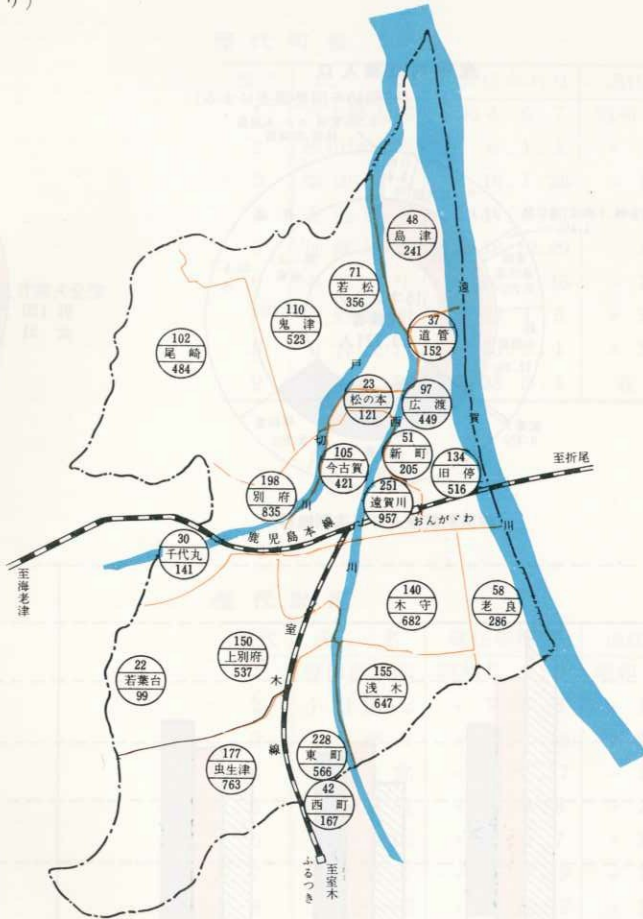
年次	総数	朝鮮人	韓国人	その他
昭和38年	69	52	17	
" 39年	72	48	24	
" 40年	62	38	24	
" 41年	69	44	25	
" 42年	58	37	21	

部落別の世帯と人口 (昭和43.10.31現在 住民登録人口による)

人口総数 9,143 人  
 世帯総数 2,229 世帯  
 1世帯当り家族数 4.1 人  
 人口密度 407.98 人  
 (1 km<sup>2</sup> 当り)

凡 例

- 町 境 界
- 大 字 界
- 世帯数  
● 部落名  
○ 人口
- 鉄 道
- 河 川



(大字別と部落)

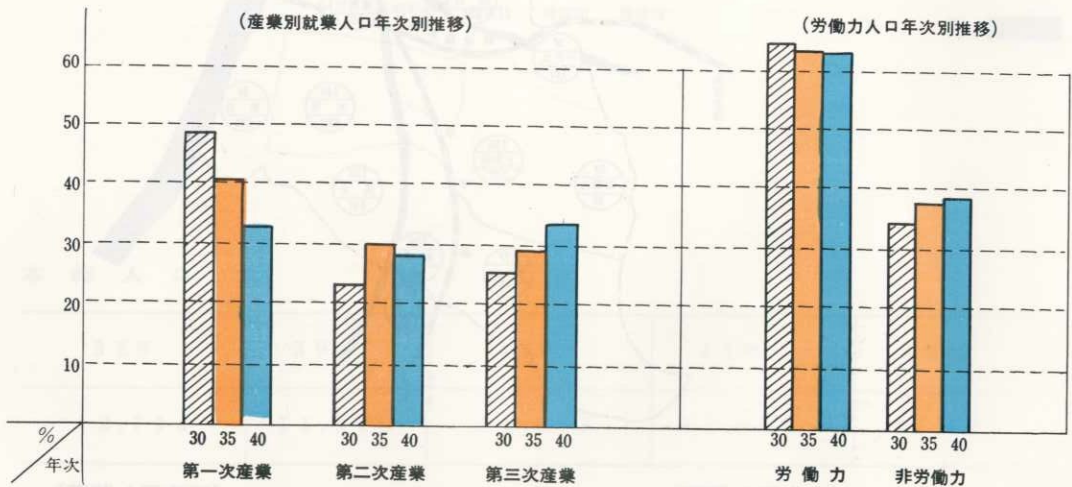
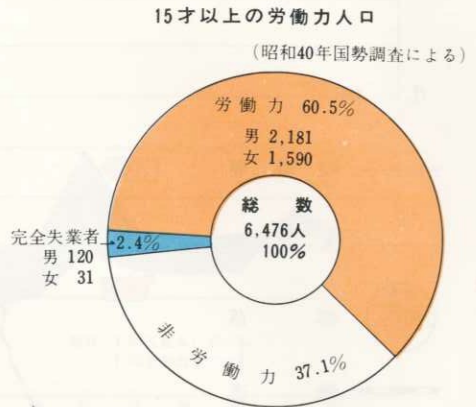
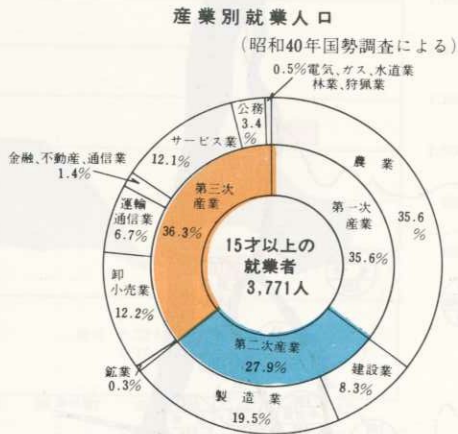
大字名	部 落 名
島 津	⊗ 島津
鬼 津	⊗ 若松, ⊗ 鬼津
尾 崎	⊗ 尾崎
別 府	⊗ 別府, × 千代丸
今古賀	⊗ 今古賀, ⊗ 遠賀川
廣 渡	○ 遠賀川, ⊗ 廣渡, ○ 新町, × 旧停, × 松の本, × 道管
木 守	⊗ 木守
浅 木	⊗ 浅木
上別府	⊗ 上別府, ⊗ 若葉台
虫生津	⊗ 虫生津, ○ 若葉台, ○ 東町, ○ 西町
老 良	⊗ 老良

(行政区と部落)

部 落 数	21
行 政 区 数	17
生 産 組 合 数	18
密 集 地 数 (消 防)	18
大 字 数	11
小 字 数	305

(注) ○印 町行政区 ×印 生産組合  
 若葉台, 遠賀川, 新町は2つの大字にまたがっている。

人口の推移  
 昭和39年 人口 100,000人  
 昭和40年 人口 100,000人  
 昭和41年 人口 100,000人



“ベットタウンの町遠賀町” 出勤風景 (遠賀川駅)

### 本町の通勤者数 (昭和43年税資料による)

八幡製鉄	170人
北九州市役所	32
黒崎窯業KK	37
教職員	88
三菱化成	59
国鉄	64
安川電気	35
その他	1,175
<b>計</b>	<b>1,660</b>

昭和39年から昭和43年までの5ヶ年間に約39%の増加を見ている。

# 行政

## 執行機関



小川助役



太田収入役

## 歴代町長

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	有吉曆太郎	昭和4.6.7	昭和5.9.27
2	原田房太郎	" 6.1.1	" 9.12.31
3	柴田圓太	" 10.1.28	" 14.1.27
4	安部伝次	" 14.6.27	" 18.6.26
5	加藤猛雄	" 18.12.29	" 20.6.19
6	名和朴	" 20.7.16	" 21.10.15
7	古野繁樹	" 22.4.5	" 30.4.30
8	有吉茂也	" 30.5.1	" 38.4.23
9	小川登一郎	" 38.5.1	在任中

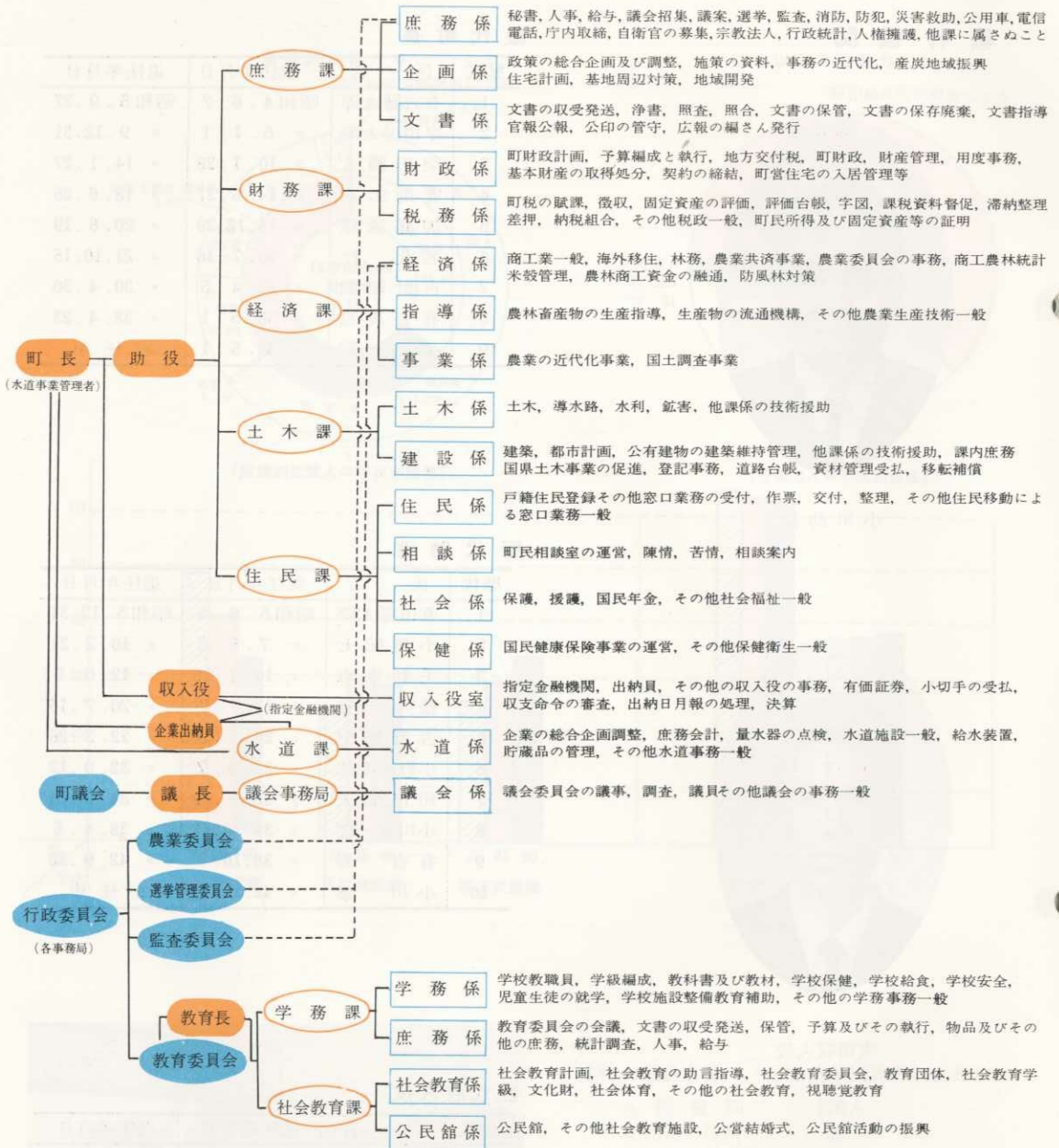
## 歴代助役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	原田房太郎	昭和5.6.5	昭和5.12.31
2	小野伝七	" 7.5.8	" 10.2.21
3	毛利幸市	" 10.7.16	" 12.6.5
4	松本寛	" 12.7.17	" 20.7.16
5	古野繁樹	" 20.9.8	" 22.3.26
6	小野周太郎	" 22.6.7	" 32.9.12
7	和田弘夫	" 32.9.19	" 34.9.15
8	小川登一郎	" 34.10.12	" 38.4.5
9	有吉寿	" 38.10.1	" 42.9.30
10	小川泰	" 42.10.10	在任中

## 歴代収入役

歴代	氏名	就任年月日	退任年月日
1	安増忠次	昭和4.4.1	昭和5.6.30
2	加藤権三郎	" 5.7.1	" 9.6.30
3	毛利林二	" 9.8.4	" 15.1.5
4	江藤優	" 15.1.15	" 19.8.20
5	繩手達実	" 19.8.31	" 25.8.31
6	石松四郎	" 25.10.1	" 35.4.30
7	小川泰	" 35.5.7	" 42.10.9
8	太田悟	" 42.10.10	在任中

# 町行政機構 (昭和43.4.1現在)



## 職員の定数

事務部局	吏員	員	その他の職員	計
町議	長	47	4	51
議	員	2		2
選	(1)			(1)
管	(1)			(1)
理				
委	3		10	13
員	2			2
会	(4)			(4)
計	55		14	69

注 ( ) 内は併任職員を表す。

議 決 機 関



前 議 長



町議会風景

歴 代 議 長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日
1	毛 利 盈	昭和22. 5 . 1	昭和26. 4 . 29
2	井 口 強	" 26 . 4 . 30	" 34 . 4 . 30
3	仲 野 馨	" 34 . 5 . 1	" 38 . 4 . 30
4	柴 田 貫 蔵	" 38 . 5 . 1	" 42 . 4 . 20
5	中 山 包 久	" 42 . 5 . 1	現 在

歴 代 副 議 長

歴 代	氏 名	就 任 年 月 日	退 任 年 月 日
1	森 田 豊	昭和22. 5 . 1	昭和26. 4 . 29
2	永 田 伊 男	" 26 . 4 . 30	" 30 . 4 . 29
3	仲 野 馨	" 30 . 4 . 30	" 34 . 4 . 30
4	中 山 包 久	" 34 . 5 . 1	" 38 . 4 . 30
5	小 野 周 太 郎	" 38 . 5 . 1	" 38 . 12 . 6
6	有 吉 茂 也	" 38 . 12 . 7	" 42 . 4 . 30
7	重 広 新	" 42 . 5 . 1	現 在



委員会審議風景



中山 議長



重広 副議長

町議会議員 (定数16人)

議席番号	氏名	住所	年齢	所属常任委員会	職業
1	石田茂	遠賀町大字虫生津420	60		
2	柴田涼	" 広渡1548	52	○	民生・文教 無
3	高崎重徳	" 木守1130	44	◎	総務・財政 社
4	毛利重徳	" 虫生津335	64		民生・文教 員
5	山内一太郎	" 今古賀86の1	69		総務・財政 業
6	安部春好	" 別府3550	55		民生・文教 無
7	溝辺繁一	" 木守1179	55		民生・文教 職
8	豊沢健一	" 上別府(若葉台)100の5	45		総務・財政 業
9	舛添義光	" 鬼津(若松)2326	62		総務・財政 無
10	池浦順一	" 尾崎1697	66	◎	土木・経済 業
11	森末英	" 浅木1157	59		総務・財政 無
12	吉田英雄	" 別府3533	71	○	土木・経済 業
13	吉松清	" 尾崎282	50	◎	土木・経済 無
14	門司恕	" 尾崎992	59	○	土木・経済 業
15	中山包久	" 木守1147の5	55	議長	民生・文教 無
16	重広新	" 広渡1187	55	副議長	土木・経済 業

◎印は委員長 ○印は副委員長

議会開催状況

(昭和42年中)

区分	招集回数	開会延日数	議案件数	議決件数	請願件数	うち採択件数
定例会	4	39	35	35	3	3
臨時会	6	19	21	21	—	—
全員協議会	9	9	—	—	—	—
総数	19	67	56	56	3	3

議員活動

区分	名称 ( ) 内は選出議員委員数を示す
特別委員会	競艇特別委員会(4) 浅木小防音特別委員会(5) 防風林特別委員会(5) 合併調査特別委員会(5) 決算特別委員会(5)
組合議会議員	養老施設組合(1) 西川改修期成同盟(2) 鞍手町遠賀町水道組合(4) 中間市外4ヶ町環境衛生施設組合(2) 遠賀郡岡垣町外3ヶ町伝染病院組合(2) 芦屋町外2ヶ町競艇施行組合(3) 中間市外2ヶ町山田川水利組合(3) 芦屋町外3ヶ町環境施設組合(2)
各種委員協議会	国民健康保険運営協議会(2) 公民館運営審議会(2) 町体育協会理事(2) 国土調査委員会(6) 社会福祉協議会委員(1)



## 各種委員会

### 監査委員

職名	氏名	住所	選任年月日
議会選出 学識経験者	毛利 盈	遠賀町大字虫生津	昭和42.5.11
	徳 王 實	遠賀町大字広渡	" 41.10.1

(注) 議会選出委員は議員の任期による。

(任期3年)

### 選挙管理委員会委員

職名	氏名	住所	選任年月日
委員長	鶴田 義人	遠賀町大字今古賀	昭和42.9.29
委員長代行者	小野 藤右エ門	遠賀町大字鬼津	" 42.9.29
委員	高崎 利雄	遠賀町大字木守	" 42.9.29
"	吉田 晃	遠賀町大字別府	" 42.9.29

(任期4年)

### 教育委員

職名	氏名	住所	選任年月日
委員長 委員	土師 晋	遠賀町大字木守	昭和41.10.1
	坂田 亀次郎	鞍手郡小竹町	" 43.10.5
	松井 義己	遠賀町大字尾崎	" 43.10.5
	村田 蓋	遠賀町大字今古賀	" 42.10.1
"	縄手 勉	遠賀町大字虫生津	" 42.10.1

(任期4年)

### 固定資産評価審査委員

職名	氏名	住所	選任年月日
委員長 委員	柴田 勇	遠賀町大字今古賀	昭和44.9.30
	太田 繁樹	遠賀町大字木守	" 42.12.28
	矢野 智	遠賀町大字島津	" 42.12.28

(任期3年)

### 農業委員会委員

職名	氏名	住所	職名	氏名	住所	
会長	仲野 馨	遠賀町大字別府	委員	柴田 治美	遠賀町大字広渡	
副会長	芳賀 和夫	遠賀町大字浅木		"	重広 新	遠賀町大字広渡
委員	柴田 盛彦	遠賀町大字広渡		"	石松 薫	遠賀町大字上別府
	石松 方則	遠賀町大字尾崎		"	竹森 繁男	遠賀町大字鬼津
"	仲野 利治	遠賀町大字別府		"	舛添 忠	遠賀町大字鬼津
"	江藤 優	遠賀町大字島津		"	添田 重広	遠賀町大字老良
"	村田 喜代實	遠賀町大字木守				

(注) 公選委員 10人 就任年月日 昭和41.7.16

(任期3年)

# 選 挙

## 選挙人名簿登録数 (昭和43.9.20)

総 数 5,746人  
 男 2,654人  
 女 3,092人  
 総人口との比率 63.05%

## 農業委員選挙人名簿登録数 (昭和43.1.31)

総 数 2,503人  
 男 1,139人  
 女 1,364人  
 総人口との比率 27.46%



公明選挙啓発活動

## 有権者数 (投票所別)

(昭和43.9.20現在)

投票区	投票所	登録人員			部 落 別 内 訳
		男	女	計	
1	島門小学校講堂	584	688	1,272	島津 155 若松 245 鬼津 350 尾崎 332 松の本 78 別 39 道かん 73
2	遠賀町役場	1,004	1,142	2,146	遠賀川 698 広渡 316 旧 255 今古賀 268 別府 527 千代丸 82
3	浅木小学校講堂	657	784	1,441	木守 419 浅木 398 老良 199 上別府 310 若葉台 58 静光園 57
4	虫生津公民館	409	478	887	虫生津 469 東町 332 西町 86
計	4	2,654	3,092	5,746	

## 選挙執行状況

(昭和42年～昭和43年)

選挙名	選挙執行年月日	有権者総数	投票者総数	投票率	立候補者数	定数
衆議院議員総選挙 最高裁判官国民審査	昭和42.1.29	5,405人	4,787人	88.56%	9人	5人
福岡県知事	" 42.4.15	5,422	4,361	80.43	2	1
福岡県議会議員選挙	" 42.4.15	5,422	4,361	80.43	3	2
遠賀町長選挙	" 42.4.28	5,390	5,093	94.48	2	1
遠賀町議会議員	" 42.4.28	5,390	5,093	94.48	23	16
参議院議員福岡県選出 議員補欠選	" 42.4.30	3,548	2,316	41.74	3	1
参議院議員通常選挙	" 43.7.7	5,639	4,276	75.82	(地方区) 6 (全国区) 93	3 50

附 属 機 関

国民健康保険運営協議会

職 名	氏 名	住 所	選任年月日	選 出
委 員 長	高 崎 重 徳	遠賀町大字木守	昭和42.5.1	公 益 代 表
副 委 員 長	安 部 春 繁	遠賀町大字別府	"	"
委 員	青 柳 成 利	遠賀町大字広渡	"	医 療 機 関 代 表
"	占 部 進	遠賀町大字別府	"	"
"	柴 田 治	遠賀町大字今古賀	"	"
"	柴 田 アキ	遠賀町大字今古賀	"	公 益 代 表
"	旗 生 重 己	遠賀町大字尾崎	"	被 保 険 者 代 表
"	芳 賀 喬 一	遠賀町大字浅木	"	"
"	石 橋 多 七	遠賀町大字広渡	"	"

(任期2年)

農業共済損害評価会

職 名	氏 名	住 所	選 任 年 月 日
会 長	畑 生 半 一	遠賀町大字尾崎	昭和42.6.20
会 長 代 行 者	芳 賀 和 夫	遠賀町大字浅木	"
委 員	柴 田 治 美	遠賀町大字広渡	"
"	石 田 寅 雄	遠賀町大字別府	"
"	村 田 忠 夫	遠賀町大字木守	"
"	峯 一 二	遠賀町大字虫生津	"

(任期3年)

民生委員推薦会

職 名	氏 名	住 所	選任年月日	選 出
委 員 長	高 崎 重 徳	遠賀町大字木守	昭和43.9.11	議 会
委 員	門 司 恕	遠賀町大字尾崎	"	"
"	柴 田 勇	遠賀町大字今古賀	"	民 生 委 員
"	石 松 覚 郎	遠賀町大字上別府	"	"
"	石 松 正 人	遠賀町大字上別府	"	社 会 福 祉 事 業 に 関 係 あ る 者
"	柴 田 アキ	遠賀町大字今古賀	"	"
"	高 崎 博 愛	遠賀町大字尾崎	"	区 域 単 位 と す る 社 会 福 祉 団 体
"	坂 田 亀 次 郎	教育委員会教育長	"	"
"	持 山 守 重	町住民課長	"	関 係 行 政 機 関 の 職 員
"	丸 井 辰 雄	町住民課社会係長	"	"

(任期3年)

附 属 団 体

(昭和43年9月現在)

附 属 団 体 名	団体の長及び代表者	役 員 数	趣 旨
公 民 館 運 営 審 議 会	長 崎 真 敏	15	公民館長の諮問に応じ公民館における各種事業の企画実施につき調査審議する
青 少 年 問 題 協 議 会	小 川 登 一 郎	44	青少年の指導、育成保護及び矯正に関する対策(青少年問題協議会設置法)
消 防 団 体	柴 田 一 彦	25	消防組織法第15条第2項及び第15条の6第2項の規定による組織
社 会 福 祉 協 議 会	柴 田 勇	23	社会福祉の増進を計るための諸対策
交 通 安 全 推 進 協 議 会	小 川 登 一 郎	26	交通安全対策の推進
体 育 協 議 会	小 川 登 一 郎	36	町の体育振興
国 土 調 査 委 員 会	小 川 登 一 郎	7	国土調査事業の推進
消 防 賞 し ゅ つ 金 審 査 委 員 会	柴 田 貫 藏	6	非常勤消防団員の賞しゅつ金審査

# 財 政

## 昭和43年 一般会計予算

(単位千円)

当初予算額  
 歳入 198,060  
 歳出 198,060



# 昭和42年度の決算状況

## 一般会計

(単位千円)

歳入			歳出		
科目	決算額	構成比	科目	決算額	構成比
町税	59,231	23.67	議会費	10,038	4.17
地方交付税	55,241	22.09	総務費	40,299	16.76
分担金及び負担金	6,313	2.52	民生費	20,370	8.47
使用料及び手数料	2,559	1.01	衛生費	8,882	3.69
国庫支出金	70,261	28.08	労働費	9,913	4.12
県支出入金	6,918	2.77	林水産業費	16,049	6.68
財産収入	1,684	0.68	農工商費	534	0.22
寄附入金	1,200	0.47	土木費	40,215	16.71
繰入金	800	0.32	消防費	2,487	1.03
繰越金	11,786	4.72	教育費	81,496	33.88
繰入金	18,163	7.27	災害復旧費	2,684	1.11
町債	15,700	6.28	公債費	7,605	3.16
臨時地方財政交付金	283	0.12	諸支出金	-	-
総額	250,139	100%	総額	240,572	100%

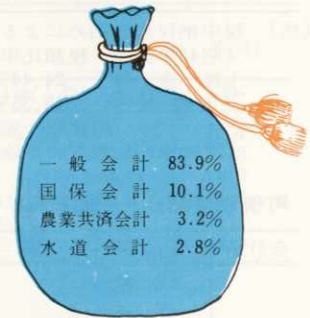
## 特別会計

(単位千円)

会計別	決算額	
	歳入	歳出
国民健康保険	29,393	28,909
農業共済事業	9,547	7,666
水道事業	9,264	9,209

“遠賀町の財政”  
(昭和42年度総会計決算額)

歳入 298,343千円  
歳出 286,356



## 一般会計決算の推移

(単位千円)

年度	歳入	歳出	差引	年度	歳入	歳出	差引
33	58,618	55,444	3,174	38	156,724	150,811	5,913
34	62,098	61,575	523	39	231,528	225,653	5,875
35	80,378	77,725	2,653	40	235,294	225,991	9,303
36	75,916	70,450	5,466	41	177,750	165,965	11,785
37	94,466	88,553	5,913	42	250,139	240,572	9,567

## 特別会計決算の推移

(単位千円)

年度別	国民健康保険			農業共済事業			水道事業		
	歳入	歳出	差引	歳入	歳出	差引	歳入	歳出	差引
33	6,706	5,841	865				2,923	2,736	187
34	7,359	6,554	805				3,024	2,923	101
35	8,244	7,081	1,163				3,229	3,172	57
36	9,600	8,167	1,433				5,597	5,473	124
37	10,030	9,197	833				6,176	5,332	844
38	11,801	10,879	922				5,129	4,350	779
39	14,286	13,026	1,260	3,299	3,091	208	5,675	5,569	106
40	21,219	18,814	2,405	3,764	2,269	1,495	5,703	5,563	140
41	26,132	25,103	1,029	4,124	2,232	1,892	18,852	18,645	207
42	29,393	28,909	484	9,547	7,666	1,881	9,264	9,209	55

(注) 33~35年老良簡易水道 38年虫生津簡易水道  
農業共済事業の38年以前は町移譲がなされていないため未掲載

町税の推移

(単位 千円)

年度	総額	町民税	固定資産税	軽自動車税	たばこ消費税	電気ガス税	鉱産税	木材取引税	調定額	収入率
33	32,236	9,955	18,181	111	2,394	1,277	319	—	35,750	90.17%
34	33,205	10,532	18,046	168	2,336	1,334	787	2	37,808	87.83
35	35,477	11,888	18,553	227	2,401	1,410	998	—	39,620	89.54
36	37,192	12,735	18,996	503	2,504	1,678	776	—	42,082	88.38
37	37,043	11,943	19,371	592	3,144	1,624	369	—	42,298	87.58
38	42,370	15,808	19,632	723	4,226	1,672	305	4	47,532	89.14
39	48,240	15,152	24,584	1,086	5,351	1,708	324	35	49,996	96.49
40	49,037	16,697	23,381	1,167	5,649	1,899	219	25	49,784	98.50
41	50,021	16,880	24,038	1,442	5,489	2,172	—	—	50,459	99.13
42	59,231	21,849	25,860	1,393	7,628	2,501	—	—	59,832	99.00

(決算資料による)

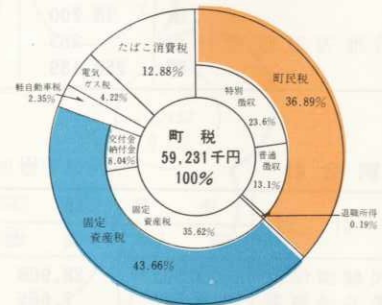
納税組合の普及状況

年 度	組 合 数	組合員数	昭42年度中組合取扱実績
41	83	961	納付書枚数 7,740枚
42	83	965	納付金額 24,230千円
43	82	972	報償金 492千円

(注) 税中納税組合納めによるもの  
(昭42年実績、税額比率)

- 税全体 24.44%
- 3税のみ 49.35% (町民税、固定資産税、軽自動車税)
- 3税中特別徴収税を除いたもの 68.98%

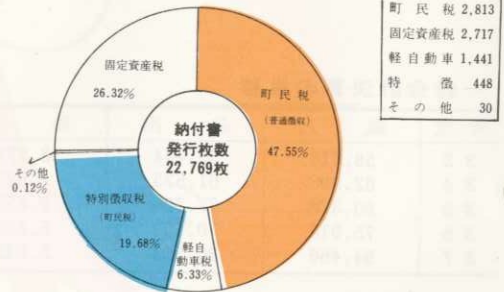
町税の構成



町債現債額 昭和43年3月31日 (単位 千円)

会計別	種 別	現 債 額	比 率
一	総 額	72,012	100%
	普通債	36,291	50.4
	一般補助事業債	8,332	11.5
	一般単独事業債	7,306	10.2
	公営住宅	1,197	1.7
	教 育	19,456	27.0
	災害復旧債	7,152	9.9
般	補助災害復旧債	1,113	1.6
	単独災害復旧債	6,039	8.3
	臨時減税補てん債	15,497	21.5
上水道	水 道 債	13,072	18.2

納税義務者及び納付書発行枚数 (昭和42年度)



住民の税負担状況 (42年度決算)



町有財産

基本財産

昭和43. 3. 31現在 (単位 千円)

種別	金額	種別	金額
学校図書関係基金	830	国民健康保険準備基金	3,673
農作物共済法定積立金	3,321	有価証券	1,230
職員退職準備金	143	総額	9,197

公有財産

昭和43. 3. 31現在 (単位 m<sup>2</sup>)

種別	区分	土地(地積)	種別	区分	土地(地積)	建物(延面積)		
普通財産	宅地区	地積	行政及び公共用財産	役場庁舎	2,912	1,198		
		山林			960,989	民館地	1,983	458
	原野	2,906		公墓学	1,306	校地	56,013	11,318
		池沼			9,769		営業住宅	8,945
	水道用地	10,041		伝火そ	—	病舎	—	—
		雑種地			515		葬の	417
	建物	建物延		755	小計	2,062	—	—
	小計	土地		1,008,362	小計	180,623	14,495	
		建物		755				
	合計	土地		1,188,985	建物	15,250		

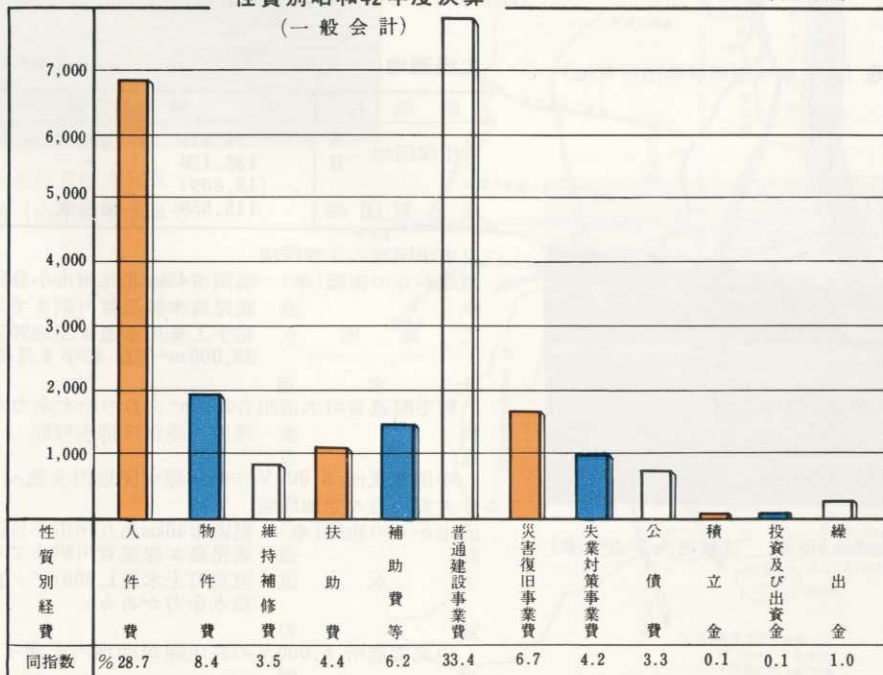
基準財政需要額及び収入額の推移

(単位 千円)

年度	基準財政需要額(A)	基準財政収入額(B)	交付基準額(A-B)	Aの伸び率	Bの伸び率	$\frac{B}{A}$
37	41,861	17,748	△24,113	100.0%	100.0%	42.4%
38	48,289	18,718	△29,571	115.4	105.5	38.8
39	56,142	23,198	△32,944	134.1	130.7	41.3
40	62,601	26,600	△36,001	149.5	149.9	42.5
41	69,399	31,336	△38,063	165.8	176.5	45.2
42	80,280	35,363	△44,917	191.8	199.2	44.0

性質別昭和42年度決算

(単位千円)



## 住宅・工場団地

本町は遠賀郡の穀倉地帯として本来農業を主体に栄えてきた町である。

明治、大正年間から隆盛してきた筑豊炭田、北九州重工業は年々地域農村へその影響力を高め本町も都市近郊農村として幾多変遷を余儀なくされたのである。

昭和30年代の高度経済成長にもなって都市圏の外延的拡大、人口移動、交通機関の発達など北九州—福岡両市の中間地帯として本町の地理的、経済的重要性は増大し、新都市計画法にもとづく北九州都市圏への指定加入も確定的となっている今日、本町が豊富な水資源と拡大な土地を基盤に住宅化、工業化への新しい装いのもとに、いま力強く踏み出そうとしている。

こゝに本町の住宅工場団地を紹介しよう。

### 住宅団地

**遠賀川駅前団地** 八幡まで20分 福岡市まで50分 格好の住宅団地である。



団地面積87,378m<sup>2</sup>(住宅分譲第1期 第2期分を含む)  
250~280戸の住宅建築が予定されている。  
宅地ブームに乗って更に広まりつゝある。

### 住宅等の新築状況

年 度	専 用 住 宅	併 用 住 宅	簡 易 住 宅	付 属 建 物	軽 量 鉄 筋 建	鉄 筋 コ ン ク 建	リ ン ト 建	ブ ロ ッ ク 建	そ の 他	計	伸 び 率
39	23	4	4	1				1	1	34	100
40	87	14	13	15	6	1		2	5	143	421
41	89	2	25	2				1	6	125	365
42	55	1	9	1				1	8	74	218
43	104	19	2					2	6	133	391

(注) 43年は9月末現在を掲載

### 工場団地

**虫生津団地** (産炭地域振興事業団所有地)



期待される企業誘致(位置 遠賀町大字虫生津)

### 工場適地

(単位m<sup>2</sup>)

団 地 名	面 積	摘 要
虫生津団地 A	24,911	造成済
B	138,128 (18,809)	"
今古賀団地	115,558	未造成

#### ○虫生津団地の立地環境

団地からの距離(車) 福岡市43km北九州市小倉区32km  
鉄 道 鹿児島本線遠賀川駅まで3km  
工 業 用 水 鞍手工業用水道4団地90万m<sup>3</sup>対象  
22,000m<sup>3</sup>/D 43年4月給水開始

上 水 道 鞍手町遠賀町水道組合250m<sup>3</sup>/Dの給水余力がある。

排 水 西川へ浄化後排水可能  
電 力

中間変電所 6,000Vの高圧線が団地内を通っている。

#### ○今古賀団地の立地環境

団地からの距離(車) 福岡市40km北九州市小倉区29km  
鉄 道 鹿児島本線遠賀川駅まで0.7km  
上 水 道 遠賀町上水道1,606m<sup>3</sup>/D  
給水余力がある。

電 力 中間変電所 6,000Vの高圧線が団地内を通っている。

周 囲 水田、軽加工又は業務用地として最適



# 進出企業

立地年月	企業名	所在地	従業員	主要製品	敷地面積	操業開始
昭 38. 9	新西工業(株)	遠賀町大字虫生津	136人	水道金具研磨	8,925m <sup>2</sup>	昭 39. 1
" 38.10	北九州製豊協同組合	" 今古賀	17	畳荒床製造	1,510	" 39. 1
" 39. 9	親和油化(株)	" 虫生津	9	石油ビッチ製造	3,133	" 40. 2
" 39.10	木村建設工業(株)	" 今古賀	8	鉄骨加工	1,000	" 42.12
" 39.10	渡辺産業(株)	" 今古賀	6	温水器組立	3,690	" 42. 4
" 41.10	マークス工業(株)	" 虫生津	41	石綿パッキン製造	15,865	" 42.10
" 42. 1	小林鉄工所	" 尾崎	59	電動機部品製造	3,272	" 42.12
" 43. 6	九州神鋼サービスセンター	" 別府	25(予定)	建設機械部品販売	15,732	" 44. 5(予定)
" 43.10	池利商店九州工場(株)	" 虫生津	30(予定)	食料品(春雨)製造	9,360	" 44. 8(予定)
" 44. 3	八幡工事遠賀工場(株)	" 虫生津	30(予定)	鉄骨機械加工	10,890	" 44. 4(予定)
" 44. 3	神光賦力印刷工場(株)	" 尾崎	50(予定)	賦力美術印刷	4,921	" 44. 7(予定)

(注) 昭和43年12月現在敷地面積 1,000m<sup>2</sup>以上を対象

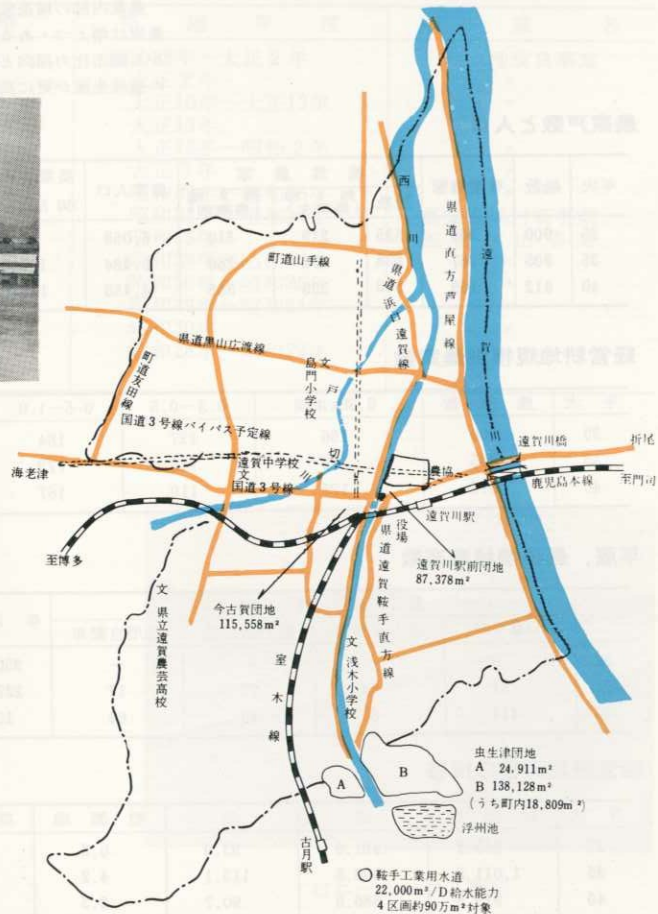


関西財界人産炭地視察

中間市, 鞍手町, 遠賀町  
鞍手工業用水道  
4区画約90万m<sup>2</sup>にまたがる



42年10月新たに立地された  
マークス工業(企業誘致第2号)



# 産 業 ・ 経 済

## 産業経済諸団体

### 農 業

#### 遠賀農業のあゆみ

本町の農業は米作を中心としてその発展をとけてまいりました。

昔を偲べば現在と隔世の差がある。

農業をとりまく自然条件、これは非常にきびしいものがあり西川、戸切川、前川、吉原川など遠賀川に引き寄せられて流れ込み、下流に向って河口がしばんでいる。又大正時代から周辺町村の鉱業が発達し西川、戸切川に因を発する鉱害が現われてきた。こゝに数知れない、水害、防風林等自然条件に対処する遠賀農業の歴史がある。遠賀川に対するさまざまな治水事業・神田川の人工用水路、曲ノ手の自然排水樋門、西川、戸切川改修、西川湛水防除による遠賀川への排水、防風林対策等がそれであります。

社会的条件といえば八幡をはじめとする北九州工業都市の発展である。年々増加する通勤者はそのほとんどが農家出身者であり、農家の人手不足は益々深刻化し、年雇(農業労働者)依存の農業時代が続いた。昭和35年頃から年雇は不足し、農業の兼業化と後継者難に直面しこうした中での農業近代化の要請が高まってきた。

団 体 名	会員数
農 業 委 員 会(委員)	13
農業共済損害評価会(委員)	6
国土調査委員会(委員)	7
農 業 振 興 組 合	143
遠賀郡農協青壮年部遠賀支部	65
商 工 会	170
防 除 組 合 協 議 会	812
も み す り 組 合	290
養 蜂 組 合	11
4 H ク ラ ブ	28

#### (昭和25～40年間の農業構造変化)

	25年	35年	40年	比 較 (%)		35～40年間 年 率
				35/25年	40/35	
農 家 戸 数	100%	100.5 %	91.2%	0.5	△ 9.3	約△ 2.0%
農 家 人 口	100	90.5	73.5	△ 9.5	△ 17	△ 3.4
経営形態	事 業	40.6	26.6	20.8	△ 14	△ 5.8
	第1種	24.3	30.7	41.3	6.4	10.6
	第2種	35.1	42.7	37.9	7.6	△ 4.8
1 戸 当 り 平 均						△ 1.0
耕 作 反 別	100	105.2	113.6	5.2	8.4	
水 稲 反 収	100	103.7	117.9	3.7	14.2	

農業内部の構造変化によって農家数及び人口は漸次減少傾向を示し兼業農家は増えつゝある反面反収は増加している。今後は農地の流動性を見ながら都市化の指向と相俟って農地面の調整が一層要求される一方農業地帯の適地生産が更に高度なものとして進むことにならう。

#### 農家戸数と人口

(単位 戸, 人)

年次	総数	専業農家	兼 業 農 家			農家人口	農業就業者 60日以上	農業基幹従事者 150日以上					
			総数	第1種 (農業主)	第2種 (農業副)			総 数	男	女	16～59才	60才以上	
													60日以上
25	900	365	535	219	310	6,058	—	—	—	—	—	—	—
35	905	367	538	278	260	5,484	1,598	1,452	620	832	1,283	169	
40	812	169	643	335	308	4,455	1,346	1,030	501	529	808	222	

農林センサス

#### 経営耕地規模別農家数

(単位 ha)

年 次	農 家 数	0.3ha未満	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0以上
25	900	166	127	184	137	143	143
35	905	176	119	179	139	129	163
40	812	127	110	167	114	114	180

農林センサス

#### 年雇、農業機械家畜数

年次	農 業 機 械(台)				年 雇	家 畜 飼 養(頭, 羽)				
	耕うん機トラクター	動力噴霧機	動力撒粉機	農用自動車		馬	役肉牛	乳 牛	豚	養 鶏
25	6	—	—	—	350	275	401	7	21	3,877
35	81	24	77	17	227	209	348	102	63	11,996
40	414	8	40	64	13	67	311	101	30	14,397

農林センサス

#### 経営耕地面積の推移

(単位 ha)

年 次	総 面 積	田	畑	樹 園 地	採 草 地	耕 地 率	農家1戸当り
25	955.2	861.8	93.0	0.3	—	42.6	106.1 a
35	1,011.2	893.8	113.1	4.2	—	45.1	111.7
40	979.8	886.8	90.7	2.3	—	43.7	120.6

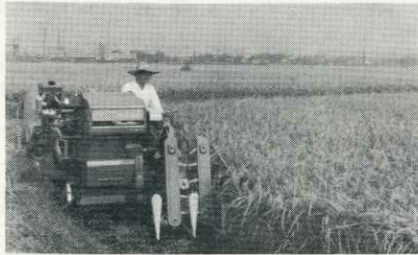
農林センサス

主要農作物の生産状況

(単位 ha)

年次	水 稲		麦 類		そ 菜 類		生 産 額
	作付面積	収 穫 量	作付面積	収 穫 量	作付面積	収 穫 量	
25	774.9	2,697 t	195.1	494 t	189.6	7,110 t	260百万円
35	847.4	3,059	220.6	582	120.5	4,699	310
40	838.9	3,439	42.3	115	124.3	4,972	505

(注) 農林センサス。生産額の欄は県農林統計協会解説第38号による



コンバインによる稲の刈取り



ヘリコプターによる水稻の病害虫防除

農地改良事業実施状況

(単位 ha)

実 施 地 区	実 施 面 積	実 施 年 度	事 業 名
虫生津, 上別府	40.35	明治38年~大正2年	一般土地改良事業
島津	14.77	大正2年	"
浅木	107.73	大正10年~大正13年	"
今古賀	41.91	大正13年	"
辛子畑(虫生津)	6.67	大正13年~昭和2年	"
蟹喰(尾崎)	20.04	大正3年	"
島津	25.00	昭和33年~昭和35年	"
老良	32.00	昭和32年~昭和34年	農業振興対策事業
葉城(浅木)	11.06	昭和35年	鉱害復旧事業
浅木	39.61	昭和29年~昭和30年	"
清水鼻(虫生津)	17.25	昭和30年~昭和35年	"
中野田(虫生津)	16.63	昭和29年~昭和34年	"
虫生間(木守)	25.50	昭和30年	"
計	410.23	昭和28年~昭和29年	"



遠賀町4Hクラブ研究会集會風景  
将来の農業をお、いに語る



ビニールハウス栽培



田植に一役(町内松の本にて)

## 農地転用状況 (昭和38~42年)

### 1. 総括 (単位 m<sup>2</sup>)

年度	宅地	工場用地	小計	伸び率
38	11,279	4,412	15,691	100.0%
39	6,514	21,401	27,915	177.9
40	12,312	11,009	23,321	148.6
41	16,648	—	16,648	106.1
42	49,784	6,705	56,489	360.0
計	96,537	43,527	140,064	

(注) 上記の外公共用地分々約 8,000~10,000m<sup>2</sup>程度潰地となっている。

### 農地 (単位 m<sup>2</sup>)

### 2. 部落別

(単位 m<sup>2</sup>)

事務区分	年度			38		39		40		41		42		小計	
	40年	41年	42年	宅地	工場用地	宅地	工場用地	宅地	工場用地	宅地	工場用地	宅地	工場用地	宅地	工場用地
権利移動関係	136件 476,927	93件 256,918	88件 186,583	尾崎 198		4,859	2,598	1,775		1,172		2,625	3,911	10,629	6,509
転用関係	24件 23,321	25件 16,648	26件 56,489	浅木 7,402		1,047		645	△ 545	848		4,564		14,506	△ 545
				広瀬 1,470	314		1,249	1,137	466	4,425		34,386		41,418	2,029
自前資金関係	18件 7,530千円	15件 9,550千円	21件 11,500千円	老良 261	889			532		161				954	889
				別府 581		489		4,647		3,422		3,865	175	13,004	175
賃貸借の解約	1件 1,250	2件 952	2件 895	今古 333	3,209	119	14,015	132	2,598		1,167	2,619	1,751	22,441	
				木生 532				2,227		2,415				5,174	
				虫津 502		3,539				621		1,094		5,254	
				鬼津 502				1,217	△ 7,400	2,950		532		5,201	△ 7,400
				上別府 993						634		558		1,192	
				島津 993								993		993	
計				11,279	4,412	6,514	21,401	12,312	11,009	16,648		49,784	6,705	100,076	39,988

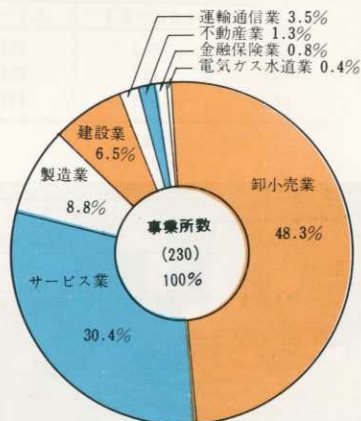
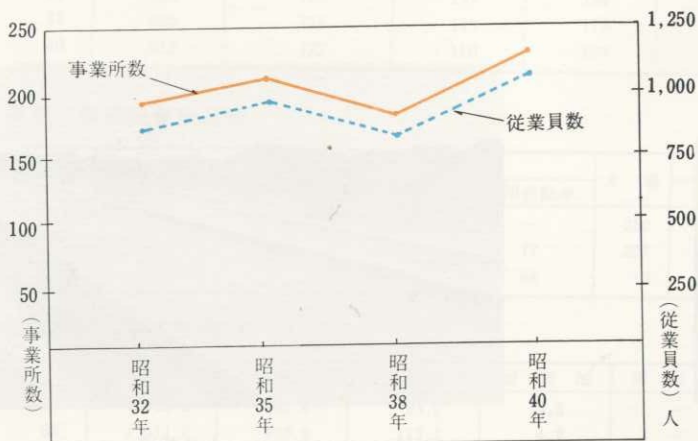
△印 その他の転用

## 商工業

### 事業所数

年度	総数	農業	建設業	製造業	卸小売業	金融保険業	不動産業	運輸通信業	電気ガス水道業	サービス業
38	187	—	13	16	94	1	—	3	1	59
41	230	—	15	20	111	2	3	8	1	70

### 事業所の年次別推移



# 商 工 会

昭和36年度，中小企業等協同組合法（商工会法）に基き法人組織として経営指導員を常置し，商工業の発展並びに商工業者の相談指導に応じている。

## 組 織 昭和43. 3. 31現在

役 員	職 員
会 長 1名	指 導 員 1名
副 会 長 2	専 任 職 員 1
理(監)事 17	補 助 員 1
会 員 170	



遠賀川商店街

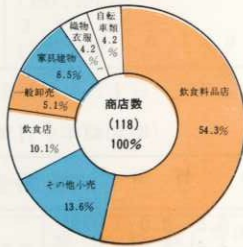
## 指 導 概 要

町商工業者の金融，税務，労務，経営等の指導相談 年間約 1,500件(最近5年間の平均)

## 商 店 数

年 度	商 店 数	小 売 業	卸 売 業	常時従業員数	備 考
39	111	104	7	156	法人8 個人商店 103内(飲食店9)
41	108	98	10	301	法人7 個人商店 101内(飲食店11)
43	118	112	6	379	法人8 個人商店 110内(飲食店12)

## 商店の内訳



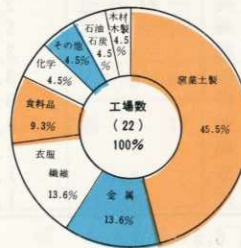
## 商店の業種別内訳

総数	一般卸売	織物衣服	飲食料品	自転車類	家具建具	その他小売	飲食店
118	6	5	64	5	10	16	12

## 工 場 数

年次	工 場 数	従 業 者 数
40	21	205
41	21	215
42	17	172
43	22	257(推定)

## 工場の内訳



## 工業の業種別内訳

昭和43年2月現在

総 数	食 料 品	衣 服 織 維	木 材 製 木	パ ル プ 紙 加 工	出 版 刷 印	化 学	窯 業 土 製	金 属	石 油 炭	そ の 他
22	2	3	1			1	10	3	1	1

## 金 融

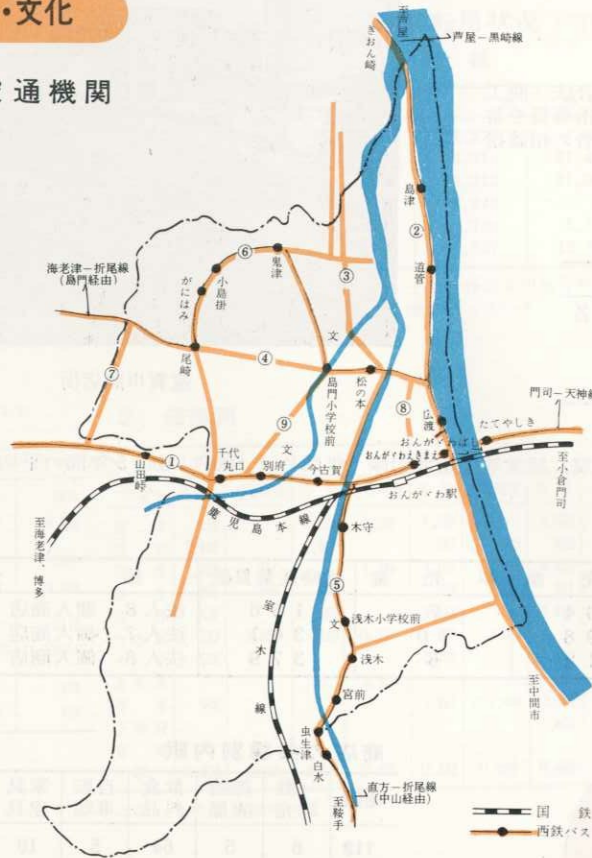
昭和43年9月末日現在 (単位千円)

金 融 機 関 名	預 金 高	貸 出 高	職 員 数	設 置 年 月 日
遠賀信用金庫遠賀川支店			7	昭和36. 6 . 11
遠賀郡農業協同組合本所	( 912,349 )	( 613,376 )	62	" 39 . 3 . 31
遠賀川郵便局			25	明治44 . 4 . 10

注 ( ) 内合計金額で表す。

交通・通信・文化

町内の交通機関



(昭和43年7月現在)

図面番号	路線名	管理区分	管轄内延長 m	交通量 台/日	巾 員 m	道路種別
1	国道3号線	一般国道	2,815.0	16,126	6.5~8.0	舗装
2	芦屋直方線	県道	5,932.2	3,674	4.6~8.5	砂利
3	浜口遠賀線	"	3,630.4	208	2.5~6.5	砂利
4	黒山広渡線	"	3,182.3	419	2.5~8.5	簡易舗装
5	遠賀鞍手直方線	"	3,084.4	617	6.5~8.5	砂利一部舗装
6	山手線	町道	8,013.3	422	6.5	砂利
7	友田二又線	"	1,600.0	201	6.5	砂利
8	重広線	"	1,072.0	—	6.5	"
9	高瀬野中線	"	1,658.0	—	6.5	"

(注) 主要道路巾員 6.5 m 以上のみ  
交通安全施設 (昭和43年10月現在)

横断歩道 7ヶ所 (市場前, 旧停柴田石油店横, 駅前, 役場前, 今古賀, 別府中学校前, 浅木小学校前)  
信号機 3ヶ所 (市場前, 駅前, 別府中学校前)



国道3号線 駅前 横断歩道及び信号機

国鉄遠賀川駅の利用状況

(各年度中)

年度	乗客(人)		貨物(屯)		手・小荷物(個)	
	乗客	一日平均	発送	到着	発送	到着
40	730,103	2,000	5,696	20,144	6,576	36,338
41	749,140	2,052	4,820	17,171	5,271	38,097
42	735,921	2,016	8,410	18,795	7,213	33,293

(注) 降客数は乗客数とほぼ同じである。

電話の加入状況

(昭和43年3月30日現在)

総数	一般加入	農村集団	公衆	申込積滞数
536	202	317	17	340

電報の取扱い状況

(昭和42年中)

区分	発信	着信
国内	3,034	5,184

(宅送含まず)

郵便物の取扱い状況

(昭和42年度中)

区分	通常郵便			小包郵便			外国郵便	
	普通	書留	速達	普通	書留	速達	普通	特殊
引受	844 (167,192)	5,206	633	1,830	208	20	(12)	—
配達	1,224 (129,810)	6,139	685	1,830	448	82	(46)	—

( ) 外国郵便10月1日~14日迄の特定期間の取扱量で表している。( ) 年賀郵便物の取扱量を表す。

自動車登録台数

(昭和43年10月1日現在)

普通貨物	普通車	乗合自動車	特殊用途車	軽自動車		原動機付自転車		農耕用タイラー
				軽自	二輪	50cc以下	50cc以上	
317	206	9	2	262	36	359	373	352

テレビ、新聞等の普及状況 (昭和43年3月現在)

テレビ受信者	ラジオ聴取者	新聞購読者
1,575	72	1,963

有線放送の状況

(昭和42年8月現在)

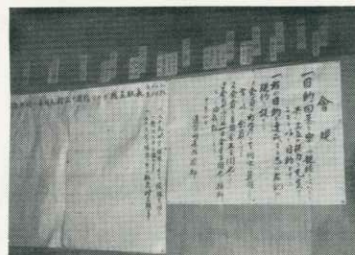
有線放送所(局数)	増幅装置(台)	拡声装置	加入戸数	関係部落						
7	35	屋外42 宅内160	791	島津	若松	鬼津	尾崎	広渡	今古賀	老良
				(屋外)	(屋外)	(屋外)	(屋外)	(屋外)	(宅内)	(宅内)

趣味、娯楽の会

(昭和43年12月現在)

団体名	事務所の所在地	世話人
遠賀囲碁クラブ	遠賀町大字広渡 (遠賀川駅前)	古野繁樹・鶴藤志美・川崎健市
遠賀町庭園同好会	遠賀町役場経済課	石松正人

(注) この外遠賀俳句会、菊花同好会(近く発会予定)などがあります。



遠賀囲碁クラブ会場

# 宗 教 法 人 の 概 要

(昭和27年以降届出分)

名 称	登 録 年 月 日	事 務 所 の 所 在 地	宗 祖	目 的	責 任 役 員 名
牟田神社	昭和28.3.9	大字尾崎字先野々859	伊弉册命外1柱	祭祀を行い祭神の神徳をひろめ本神社を崇敬する者及び神社神道を信奉する者を教化育成する	栗田敏彦
八剣神社	28.3.9	大字今古賀442	日本武尊外3柱	"	"
貴船神社	28.3.9	大字別府2709	高游神社外3柱	"	"
今泉神社	30.5.23	大字別府3207	大倉主命外2柱	"	"
住吉神社	30.3.9	大字鬼津2316	住吉大神	"	"
貴船神社	28.3.9	大字鬼津1950	高靈神聞靈神	"	"
白山神社	28.3.9	大字尾崎1558	白山姫神	"	"
皇太神社	28.3.9	大字尾崎935	天照大神	"	"
伊豆神社	28.3.9	大字島津578	伊豆能売神	"	"
地主神社	28.3.9	大字鬼津1586	倉稲魂神	"	"
天満神社	28.3.6	大字上別府1763	菅原神	"	岡直文
貴船神社	28.2.26	大字広渡高繩手849	高靈神聞靈神	"	"
鳥門神社	28.2.26	大字広渡字松の本2261	大国主命素盛鳴命	"	"
山崎神社	28.2.26	大字上別府1608	大山祇命鹿屋命姫命	"	"
井手神社	28.2.26	大字木守 1576	聞靈神外2柱	"	"
八剣神社	28.2.26 (規変)36.9.7	大字広渡1725の4	日本武尊9座大神	"	"
浅木神社	30.5.3	大字浅木870	日本武尊素盛鳴尊	"	門司成重
老良神社	28.12.11	大字老良67	日本武尊玷王命	"	千々和美一
行満寺	28.12.19	大字別府3168	親鸞聖人	宗祖を仰ぎ宗派の教義をひろめ法要儀式を行い寺院に属する僧侶、門徒その他の信者を教化育成する	内藤智廣
妙雲寺	28.12.10	大字老良115	親鸞聖人	"	喜多村龍溪
長岸寺	28.7.16 (規変)39.4.15	大字広渡1218	阿弥陀仏	"	吉永定孝
常楽寺	28.7.9	大字鬼津2046	釈迦牟尼仏	"	信行雪鴻
長楽寺	30.6.11 (規変)39.4.23	大字虫生津588	阿弥陀仏	"	長崎真叡
西光寺	28.12.30 (規変)39.4.15	大字浅木811	阿弥陀仏	"	矢野定岳
栄宗寺	28.7.15	大字鬼津2332	薬師如来	"	鷲尾孝義
金光教虫生津教会	27.12.3	大字虫生津330	生神金光大神	天地金及神より金光教祖に信委せられた取次の本義に則り日夜結界奉仕を基本として教義をひろめ儀式行事を行い信者を教化育成し神も助かり氏子も立行く世界を顕現する	古野スガノ
御嶽教老良教会	27.12.1 (規変)34.9.8	大字老良83	御嶽大神	大教殿を本部教会として御嶽教の教義をひろめ儀式行事を行い信者を教化育成する。	桜木トヨ子
福祥寺	27.12.23	大字虫生津549	不動明王	覚意上人大菩薩を宗祖として尊信し宗祖中心の宗是に基き、その教義をひろめ、儀式行事を行い信者の教化育成し祖風を宣揚し正法興隆衆生済度の聖業に精進する	小田信雄
天理教浅木分教会	28.4.11 (規変)37.8.14	大字今古賀新川120の4	天理命	親神の分霊を奉斎し天理教典に依據して天理教の教義をひろめ儀式行事を行い信者を教化育成する	内藤タキエ
天理教筑陽分教会	27.9.15 (規変)37.8.14	大字別府3241	"	"	平岡吉平
天理教広渡分教会	27.9.15 (規変)37.8.14	大字広渡1242	"	"	植本イノ
天理教安晃分教会	29.4.30 (規変)37.8.14	大字浅木冲方834	"	"	川原満
堂塔寺	40.6.7	大字鬼津2504	大日大聖不動明王	本尊の般若心経を所依の教典として弘法大師立教の本義に基き、転迷開悟衆生済度の教義をひろめ儀式行事を行い信者を教化育成する	川端ハツヘ



# 教 育

## 公立小中学校

(昭和43年10月1日現在)

学 校 名	学 級 数	生 徒 数			職 員 数	開 校 年 月 日	校 長 名
		総 数	男	女			
島 門 小 学 校	14	465人	226人	239人	23人	明治35.9.2	柴 田 正 生
浅 木 小 学 校	12	362	198	164	20	明治7.4.1	中 村 甚 平
遠 賀 中 学 校	12	496	145	251	24	昭和22.4.1	田 口 岩 助

## 私立幼稚園

幼 稚 園 名	学 級 数	生 徒 数			職 員 数	開 園 年 月 日	園 長 名
		総 数	男	女			
遠賀中央幼稚園	3	54人	31人	23人	4人	昭和43.5.14	鷲 峰 え つ

※公立高等学校……県立遠賀農芸高校(北九州市八幡区折尾町則松)が本町上別府高家に移転  
完成予定 昭和45~47年 生徒数 550~600人

## 学校教育施設の状況

(昭和43年5月現在)

学 校 名	敷地面積	校舎面積	教室数	施 設 内 容
島門小学校	(6,260) 14,568 m <sup>2</sup>	3,132 m <sup>2</sup>	(14) 22	鉄筋コンクリート3階建 防音校舎(昭和38,39年改築)
浅木小学校	(7,784) 16,130	3,129	(18) 23	鉄筋コンクリート3階建 防音校舎(昭和42,43年改築) 未解体部分を含む
遠賀中学校	(10,800) 25,526	3,301	(15) 22	鉄筋コンクリート3階建 防音校舎(昭和40,41年改築)

注( )内運動場面積、普通教室を表す。

校舎の防音改築 町内小中学校は在日米空軍及び自衛隊の射撃訓練が始って15余年になるが、射撃降下等による騒音のため、授業は再三中断され、教育効果に及ぼす影響が大きく、昭和38年度から昭和43年度迄小中学校の防音改築が行われた。



島門小学校全景

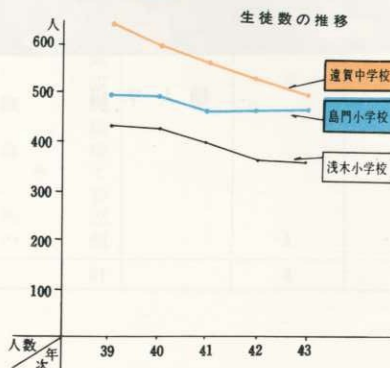
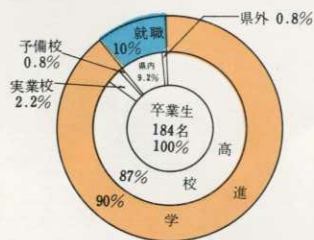


浅木小学校全景



遠賀中学校全景

## 中学生の卒業後の状況(昭和43年3月現在)



# 社会教育

町公民館 1	部落公民館 18
--------	----------



公営結婚式（公民館主事による司婚）

## 社会教育の活動状況(昭和42年中)

行 事	件 数
各種講習会	10回
婦人学級	10
青年学級	10
関係団体合	22
結婚式	43
各種体育会	10
教育映画	13
家庭教育学級	10
老人大会	2
老人クラブ合	10
政治学級	8
その他の催し	96

## 社会教育・文化団体

団 体 名	会 員 数
公民館分館長会(分館長)	18
体育協会(委員)	25
青少年問題協議会(委員)	44
婦 人 会	1,100
青年団連絡協議会	160
郷土文化研究会	11
体育指導委員	11



壮年体力テスト 急歩(1,000m間を何分で歩くか)



婦人学級



政治学習

# 保健・衛生

## 国民健康保険

### 保険の加入状況

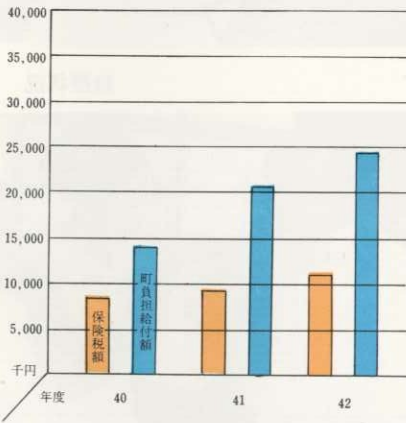
年度	世帯		被保険者		保険税額	平均負担額(税)	
	世帯数	加入率	人員	加入率		1世帯当り	被保険者1人当り
40	898	47.44%	3,337人	38.84%	7,266,500円	8,091円	2,177円
41	927	45.37	3,366	37.35	9,692,140	10,455	2,879
42	952	43.89	3,374	37.26	11,237,440	11,804	3,330

### 保険の給付状況

年度	給付			給付額(単位千円)				1件当り費用額
	件数	日数	受診率	総額	町負担額	患者負担額	その他公費負担額	
40	10,455	44,330	312.18%	23,721	14,264	9,331	126	2,231
41	12,405	50,326	366.15	29,185	20,284	8,699	202	2,331
42	13,424	55,944	394.24	35,405	24,378	10,455	572	2,623

(注) 受診率100%が1回である

### 保険税と保険給付費の比較



### 法定伝染病の発生状況

病名	40	41	42
赤痢	2		7
腸チフス	1		
猩紅熱		1	1
流行性脳脊髄膜炎		1	
日本脳炎			
ジフテリア			

### 予防接種の実施状況

(昭和42年中)

百日せき ジフテリア	日本脳炎	腸チフス	小児マヒ	種とう	インフルエンザ	狂犬病
750	4,176	2,488	221	443	4,328	455

### 死因別死亡者調

昭和42年中

死因別病類	0~19才	20~39才	40~59才	60~79才	80才以上	合計		
						男	女	計
脳が老肺事心結尿せ胆未そ		1	5	9		8	6	14
			5	4		6	4	10
				16	7	10	13	23
				1			1	1
				2		4	1	5
臓毒そ		2	3			4	1	5
			1				1	1
熱の			1	2		2	1	3
合		4	15	32	8	31	28	59

昭和42年度給付状況

(昭和42年中)

種別	件数	日数	給付総額
総入	13,616	55,944	35,501,823円
入院	299	4,858	8,299,601
院外	10,364	36,625	21,077,213
療養	2,761	14,461	5,840,425
歯科	83	—	51,053
薬剤	61	—	137,531
養育	28	—	56,000
助産	20	—	40,000
葬祭	—	—	—

国民健康保険特別会計

(昭和42年度)

歳入歳出決算状況

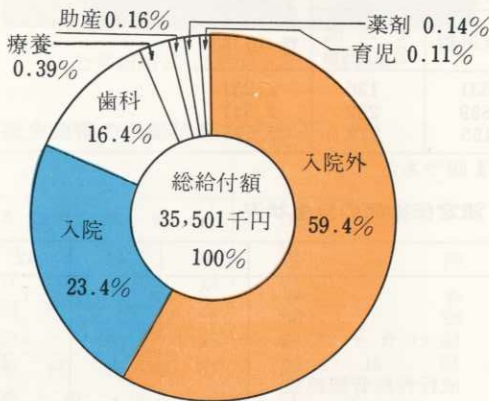
歳入  
29,393千円

国庫支出金 52.2%	保険税 38.7%
繰入金 3.4%	繰入金 3.5%
繰越金 1.2%	雑収入 0.7%
雑収入 0.7%	財産収入 0.3%
県支出金 0.3%	

歳出  
28,909千円

保険給付費 86.1%	総務費 9.8%
	保健施設費 4.1%

昭和42年度給付額の内訳



診療状況



子防接種

国民年金

年金の加入状況

(昭和43年7月30日現在)

総数	強制加入	任意加入
1,878人	1,432人	446人

年金の受給状況

(昭和43年7月30日現在)

年金種別	拠出年金				福祉年金				児童扶養手当			特別児童扶養手当		
	区分	人員	給付金額	区分	人員	給付金額	区分	人員	給付金額	区分	人員	給付金額		
総計														
受給人員	397人	2	937	老令	339	7,388	扶養手当	10	276	特別扶養	2	44		
		13		老令	25									
		1		母害	5									
受給金額	8,645千円	計	16	計	369	7,388	計	10	276	計	2	44		

# 民生



養老施設「静光園」

管理主体 中間市遠賀郡福祉施設組合  
 園長 有吉 正  
 所在地 遠賀町大字上別府892  
 収容人員 50名

## 社会事業団体

団体名	会長	副会長	理事	委員	会員
民生(児童)委員協議会	1	1	—	14	16
社会福祉協議会	1	2	7	13	23
身体障害者福祉会	1	3	6	—	133
母子福祉会	1	2	—	16	120
遺族会	1	2	13	—	230
老人クラブ連合会	1	2	—	12	679
働く友の会	1	5	6	44	500
傷痍軍人会	1	—	2	—	14



町敬老会

## 生活保護の状況

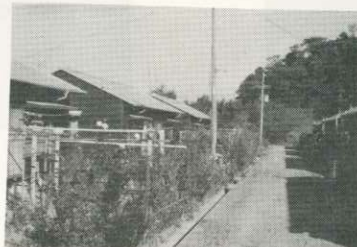
年次	総数		うち生活扶助		うち医療扶助	
	世帯	人員	世帯	人員	世帯	人員
40	230	722	225	716	5	6
41	259	740	249	720	10	20
42	237	664	231	658	6	6



遺霊祭

## 公営住宅

団地名	戸数	種別
県営浅木団地	40戸	1種
町営虫生津団地	34	2種
町営鬼津団地	6	2種
町営西町団地	10	2種



県営 浅木団地



町営虫生津(新屋敷)団地

身体障害者

総数	視覚	聴覚	言語	肢体	体かん	平衡機能障害
133	26	26	3	65	10	3



保育所の保育状況

保育所(私立)

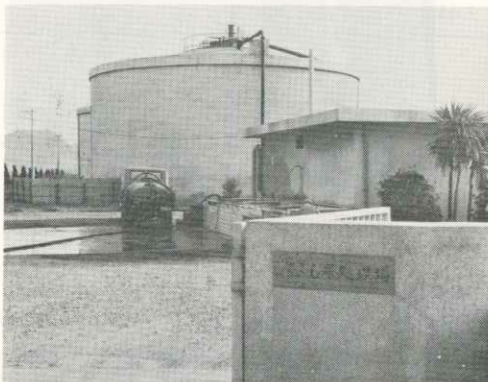
(昭和43年11月現在)

名称	収容人員		職員数	開園年月日	園長名
	定員	現在員			
遠賀川保育園	50人	50人	5人	昭和25.4.1	森田誠之助
山びこ保育園	55	54	5	" 30.4.1	松尾保氏
南部保育園	70	70	6	" 34.4.1	松本伝

共同処理施設の状況

(昭和43年4月現在)

施設名	管理主体	所在地	設置年月日	事務所の位置及び管理者	議員定数	利用対象
老人福祉簡易水道	中間市遠賀郡福祉施設組合	遠賀町大字上別府	昭和36.4.1	水巻町(兼)	10	中間市、遠賀郡
尿	鞍手町遠賀町水道組合	" 虫生津	" 39.3.1	遠賀町(兼)	5	鞍手町、遠賀町
しごみ、火葬場	中間市外遠賀郡4ヶ町環境衛生施設組合	水巻町大字猪之熊	" 38.6.24	水巻町(兼)	15	中間市、遠賀郡
伝染病院	芦屋町外3ヶ町環境衛生施設組合	芦屋町大字大君外	" 43.6.17	芦屋町(兼)	12	遠賀郡
競艇	遠賀郡岡垣町外伝染病院組合	岡垣町大字手野	" 41.3.28	岡垣町(兼)	12	遠賀郡
農業用水	遠賀郡芦屋町外2ヶ町競艇施行組合	芦屋町大字山鹿	" 27.11.1	芦屋町(兼)	14	芦屋町、遠賀町、岡垣町
河川(排水)	山田川水利組合	山田川水系(関係地区)	" 30.8.18	中間市(兼)	12	中間市、鞍手町、遠賀町
	西川改修期成同盟会	西川水系(関係地区)	" 30.5.1	鞍手町(兼)	11	鞍手町、遠賀町、三菱新入



し尿処理施設



伝染病院

# 消防・治安

## 消 防

本町消防団は3個分団153名で組織され、火災・水防をはじめ各種の災害に対し縦横に活動している。また最近の傾向として、危険物災害並びに交通事故等による救急業務に対処する施設の充実および消防行政の広域化の課題に直面している。

### 消防団員数

階 級	別	団 員 数
団	長	1
副 団	長	2
分 団	長	3
副 分 団	長	3
班	長	16
団	員	128
計		153



出 初 式

### 消防施設の状況

分 団	管 轄 区	消 防 ポ ン プ		防 火 水 槽	消 火 栓	無 線 機	望 楼
		消防自動車	小型動力ポンプ				
第一分団	別府、今古賀、木守、広渡、遠賀川（町内一円）	2	4	2	9	3	1
第二分団	島津、若松、鬼津、尾崎		4	6			
第三分団	上別府、浅木、虫生津、東町、西町、老良		4	1	12		
計		2	12	9	21	3	1

### 消防団出動状況

(昭和42年度)

火 災		風 水 害		特 別 警 戒		演 習 訓 練		そ の 他 特 別 出 動		合 計	
回 数	延 人 員	回 数	延 人 員	回 数	延 人 員	回 数	延 人 員	回 数	延 人 員	回 数	延 人 員
10	418	2	15	14	118	25	576	—	—	51	1,127



消防団総合訓練

# 警 察

遠賀川派出所 2人

浅木駐在所 1人

## 刑法犯の発生件数 (遠賀川派出所管内)

年次	総数	凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	その他
40	68		1	51	16
41	75		4	49	22
42	102	2	1	53	46



交通指導風景

## 交通事故発生状況表

(遠賀川派出所調べ)

年次	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
39	151	11	8	15	16	14	13	16	5	21	11	12	9
40	106	10	8	2	9	5	13	8	15	10	9	5	12
41	103	6	7	8	9	3	7	12	11	11	10	10	9
42	101	6	12	9	7	6	14	10	3	8	10	4	12

## 心配される交通事故、刑犯罪

毎日0.3件の交通事故と0.3件の刑犯罪が発生している。

## 交通事故の内容

(遠賀川派出所調べ)

年度	死者	傷者	物件
39	9人	100人	67人
40	11	75	40
41	3	68	49
42	4	88	33

## 防犯燈の設置数

年次	防犯燈設置数	年次	防犯燈設置数
36	28	40	10
37	20	41	10
38	34	42	10
39	12	総計	124

(注) これ以外に部落設置外灯が約50~60灯ある



# 水 道

## 上水道（遠賀町水道事業）

遠賀町の水道は、昭和30年遠賀村簡易水道（計画人口 3,000人 1日最大給水量 450m<sup>3</sup>）をはじめとして昭和34年老良簡易水道（計画人口 480人 1日最大給水量72m<sup>3</sup>）が発足、以来年々給水需要の増加と相まって順調なる発展をし昭和43年公営企業法の適用による上水道事業として（計画人口12,000人 1日最大給水量 2,640m<sup>3</sup>）町全域に給水するまでに至った。

取水源については昭和35年中間市水道と分水契約を結び以来中間水道の給水を受けている。本年、年間 2,640m<sup>3</sup>の分水契約に改約し給水需要に対処している。

## 水道使用料（月額）

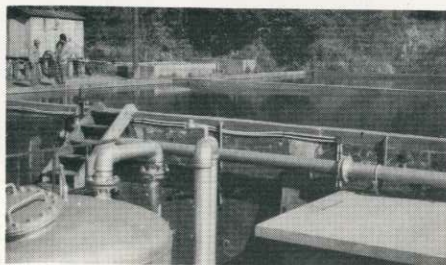
用 途	基本料金		超過料金 (1m <sup>3</sup> につき)
	水量	料金	
一般家庭用	8m <sup>3</sup>	300円	35円
営業用	8	300	35
工事及び臨時用	20	1,000	50
機関車用	1	18	

## 給水栓（基数）

年度	総数	給水栓の内訳			
		一般	集合	官公署学校	共用
40	868	855	—	12	1
41	940	925	1	13	1
42	1,086	1,070	1	13	2

## 水道工事（主なもの）

年度	工 事 名	延長	工事費	給 水 区 域
		m	千円	
28	遠賀村簡易水道布設工事	11,203	23,052	遠賀川、広渡、木守、今古賀、浅木、上別府
31	遠賀中学校水道布設工事	1,062	860	別府
34	老良簡易水道布設工事	3,161	2,437	老良、木守沖、浅木牟田
36	遠賀村簡易水道計画変更工事	2,200	2,259	鬼津（1部）松の本
37	今古賀別府配水管改良工事	744	1,168	別府、今古賀
41	遠賀町北部地区水道布設工事	7,083	11,903	島津、若松
43～44	遠賀町北部地区水道布設工事	14,919	72,226	尾崎、鬼津（予定）



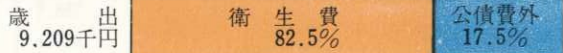
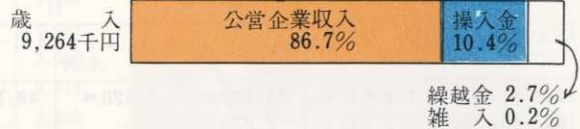
鞍手町遠賀町水道組合浄水場

## 給水区域内の水道普及状況

年度	給 水			配水量 (月当)	配水管 延長	普及区域(新たに)
	世帯	人口	普及率(人口)			
40	戸 870	人 3,741	% 90.0	t 9,525	m 16,019	
41	943	4,243	91.0	9,887	23,046	島津、若松、道管
42	1,091	4,691	91.3	11,866	23,625	遠賀川団地

(注) 町全体の水道普及状況は65.3%（昭和43年4月現在）です。

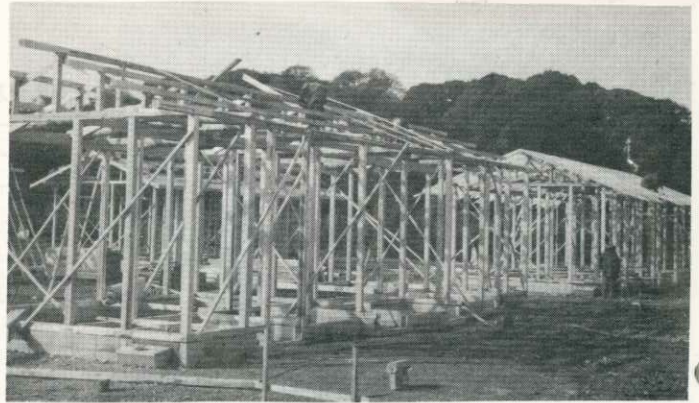
## 水道事業特別会計 歳入歳出決算状況 昭和42年度



## 簡易水道（鞍手町遠賀町水道組合）

昭和37年三菱鞍手鋳業所の水道事業を鞍手、遠賀両町で継承することになり一部事務組合として発足、給水区域は遠賀町虫生津、鞍手町、古門地区で町内（昭和43年4月現在）は 326戸、1,215人が給水を受けている。

# 土 木



町営住宅 西町団地の建築状況

## 道路の状況

(昭和43年4月1日現在) 町管内

区分	路線数	実延長	幅 員 別				舗装延長	舗装率 (4.5m以上)	面 積
			5.5m以上	5.5~4.5m 未満	4.5~2.5m 未満	2.5m未満			
総数	220	156,606 m	24,123 m	9,520 m	48,392 m	74,571 m	11,334 m	%	485,341ha
国道	1	2,833	2,833	—	—	—	2,833	100	2,779
県道	4	18,205	9,673	4,520	4,012	—	7,030	49.5	103,457
町道	215	135,568	11,617	5,000	44,380	74,571	1,473	8.9	379,105

## 橋りょうの状況

(昭和43年4月1日現在) 町管内

区 分	総 数			永 久 橋			木 橋		
	数	延 長	面 積	数	延 長	面 積	数	延 長	面 積
総 数	128	1,764 m	9,230 m <sup>2</sup>	110	1,327 m	7,845 m <sup>2</sup>	18	437 m	1,385 m <sup>2</sup>
国 道	11	534	4,806	11	534	4,806	—	—	—
県 道	29	321	1,803	27	236	1,419	2	85	384
町 道	88	909	2,621	72	557	1,620	16	352	1,001

## 河川の状況

(昭和43年4月1日現在) 町管内

国 営 河 川			県 営 河 川			そ の 他 の 河 川		
名 称	延 長	平均川巾	名 称	延 長	平均川巾	名 称	延 長	平均川巾
遠賀川	5,950 m	450 m	戸切川	1,750 m	28 m	白水川	2,800 m	5 m
			西川	3,875	40	吉原川	4,500	5
						前川	2,300	8
						蓮角川	1,400	25

## 溜池の状況

(昭和43年4月1日現在)

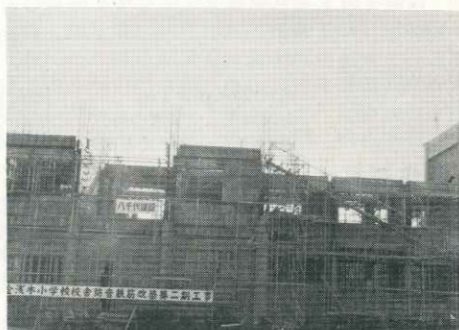
所有区分	数	貯水量	溜池名
町 有	22	594,416 m <sup>3</sup>	蟹喰、慶ノ浦(㊦)(㊧)、二又、高山、上の越(㊦)(㊧)、友田(1)(2)野中(1)(2)、梅ヶ鼻、伏原、八反田、小谷、土取添ヶ谷(㊦)(㊧)由良、黒松、風呂ヶ谷、倉谷(㊦)

最近5ヶ年間の主な土木事業

(単位 千円)

施行年度	事業別	工事の名称	工事金額
38	開拓事業	開拓道路改良工事	3,777
"	老朽溜池事業	老朽溜池改良事業	5,210
"	緊急就労対策事業	緊急就労対策事業	11,352
"	防音対策事業	島門小学校防音改築工事	36,479
39	"	"	74,235
"	"	遠賀中学校防音改築工事	24,471
"	緊急就労対策事業	緊急就労対策事業	11,148
"	鉦害復旧事業	臨時鉦害復旧工事	2,048
"	老朽溜池事業	老朽溜池改良工事	5,094
40	緊急就労対策事業	緊急就労対策事業	10,094
"	防音対策事業	遠賀中学校防音改築工事	86,830
41	緊急就労対策事業	緊急就労対策事業	10,067
"	一般土木事業	広渡(遠賀川駅~国道)道路工事	1,479
"	"	遠賀川埋立地橋梁新設工事	1,663
"	老朽溜池事業	老朽溜池補強工事(城の越)	3,592
"	有線放送事業	有線放送設置事業	6,434
"	教育施設事業	プール建設工事	5,785
"	"	公民館建築工事	4,003
"	災害復旧事業	農林災害復舊工事(河川)	2,357
42	緊急就労対策事業	緊急就労対策事業(別府上別府線)	9,913
"	一般土木事業	駅前道路整備工事	2,860
"	"	白水橋改修工事	1,100
"	"	広渡埋立地内橋梁新設工事	1,493
"	基地周辺民生安定事業	道路整備事業(鬼津山手線舗装)	7,887
"	鉦害復旧事業	臨時鉦害復旧事業	4,388
"	防音対策事業	浅木小学校改築事業	52,868

(注) 工事費 1000千円以上を表す。



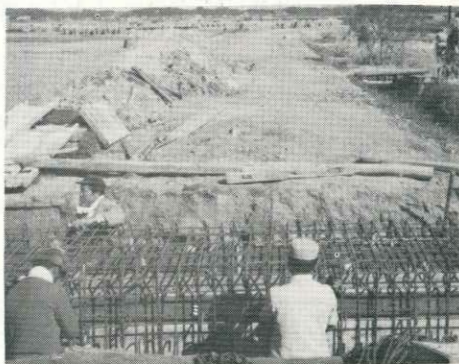
浅木小学校鉄筋防音改築工事の状況



山手線道路舗装工事の状況



駅前団地内(新町)道路進捗状況

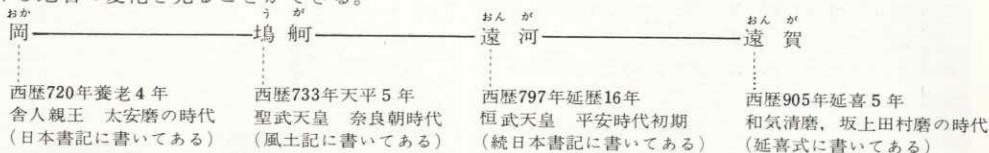


炭坑離職者緊急事業 高瀬野中線拵改良状況

# 郷土史

## 遠賀の地名考

筑前風土記に「世々の帝の幸なりし所偏土には稀なり」と遠賀地方が歴史的に古い由緒あることを述べており古書に出てくる地名の変化を見ることができる。



## 古代遠賀川地域の発達

現在呼ばれている遠賀の大字、小字名を見ると津、崎、渡という皆古の沿岸の名残を地名にとゞめ古代が入海で玄海に連らなっていたことを思わせる。湊正雄氏の「日本列島」によると日本の縄文時代(約4000~6000年前)芦屋の海岸は一度海進作用で陸地に深く海岸線がはいっていたことが想像される。これは地球の温度が高くなりいわゆる氷河の解氷期にあたり世界的な気象変動であった。その後2500~500年前までに静かな海退作用が行なわれ現代の海岸線が完成したという。この頃は地球の温度が今より高く、河海に貝類が繁殖しやすかったことから原始人は盛んに貝を食ったとみえ、各地に貝塚と称する貝殻の捨て場が残っているという。

古代の遠賀川族の祖を熊鰐といひ、水、海の資源を以って生活しており、外敵に対しては水軍の術に長じ熊鰐の如き人物も当然現われたという。遠賀川族の優秀な武力を実証する遠賀軍団、筑前の国 4,000人弘仁2年太宰府町観世音寺字米木から団印が発見されたとある。古代の人々は芦屋、山鹿、島門、岡垣など海に面して点在する陸地に遠賀川族の祖先が定住したと見られ、古えは太宰府と京都とが密切に連絡をもち、奈良朝、平安朝、鎌倉時代の1000年間筑紫の国には太宰官道が発達して島門の駅が置かれ遠賀郡の重要な交通地点となったと延喜式に記されている。

そうした古代文明の発達の影響を受け明治以後の遠賀地方の生活はかなり著しい変遷があったと教えられている。藩政時代すでに焼石会所が設けられ諸多の物品を販売した頃遠賀川下の芦屋は最も隆昌を極めた時代であったが、明治維新になって焼石会所が廃せられ、石炭の自由販売が許される様になりとりわけ明治の中後期にかけては職業の変遷や競争の影響をうけて各所に工場が立ちはじめ八幡・戸畑の工場に勤める人が次第に増えてきた。もともと遠賀川流域は地味肥え作物よく繁り農業には適した地帯であり、農業と船頭が主なる職業であった。一たび災害が起れば生活苦に追われ娯楽、慰安は部落のお祭り盆正月節句や勝負事ぐらいであったといわれ 210日の厄ばらいに風止籠田植後豊作を祈る植あがりごもり、疫病をまぬがれた人情を表わした厄神様ごもり、豊作を祝うお宮日、弘法大師の徳をたゝえて巡礼するお大師様まいり、遠賀川を境にして川東、川西と別れ、川西は四国88ヶ所になぞらえて88ヶ所の札所を作り、西は岡垣の湯川から、北は芦屋、南は底井野と春光うららかな日射の中に白衣行列など忘れられぬものである。

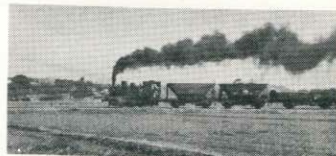
そうした生活も堀川が石炭輸送路として登場するや遠賀川、芦屋の命脈は漸次絶たれ、筑豊線が敷設されるに至っては舟頭生活も過去の夢として次第に消えて行ったという。(昔の記録によれば)

(鉄道)

- 遠賀川—室木間(室木線) 明治41年6月石炭及び旅客輸送のため室木線開通(九州鉄道株式会社)
- 若松—中間間(筑豊線) 明治24年8月開通(筑豊鉱業株式会社)
- 香月—中間間(香月線) 大正6年1月開通(国有鉄道)
- 芦屋—遠賀川間(芦屋線) 大正4年開通(芦屋軽便鉄道株式会社)

(国道)

国道……大正10年東西縦貫する道路を失業救済事業として行われた。



当時の芦屋軽便鉄道

遠賀平野は昔から川筋とよばれ、その地下にもつ石炭資源はかつては日本一を誇り、北九州の今日の文化と繁栄を招来したといっても過言でない。明治22年4月1日町村制実施にあたって芦屋、山鹿、岡県、矢矧、島門、浅木、底井野、長津、水巻、香月、上津役、洞南、黒崎、八幡、戸畑、若松、石峰、洞北、江川(現在の北九州市、戸畑、八幡、若松区)を含め2町17村であった。

この点からも発展がうかがえる。これは産業上著しい活気を考えるばかりでなく、人情、風俗、言語等所謂川筋独特の様式を作り出しているといえる。

## 遠賀地方の方言 (主なるもの)

標準語	方 言	標準語	方 言
いらっしゃい	きない きんしゃい こんね	なんですか	なんなあ なんやあ
ください	やんない やんしゃい くんない やりい やれえ	おそろしい	おとろしい えずい
ありません	ないくさ ないばい ないとばい あるとかあ	していた	しよんなる しよんしゃった しよりなさった
いきます	いくくさ いくばい いくたい いかしゃこて	ごはん	まま ごぜん
かえります	いにます いぬる	おつけもの	こんこん
してはいけない	しんしゃんな しんな	私の家	うちがた
しますが	するばってん するわい すらあ	たたくぞ	どやすぞ
少し	ちいと ちびつと	ごめん下さい	もーし

(遠賀平野)

地形の変動と英彦山から流れてきた水勢によって堆積した東西4~10kmに達する沖積層からなる低湿な平野部で、東西の両側に第3紀の丘陵が自然の緑となり、遠賀平野をかたどっている。標高を見ると芦屋河口から8km上流浅木小学校付近まで塩が逆流するとある。

(遠賀川)

九州の霊峯英彦山に発して彦山川となり、朝倉郡堺の古所馬見山(978m)より発する嘉麻川と合流し途中38の小河川を含め芦屋で響灘に注ぐ県下で筑後川に次ぐ大河川である。その流路延長64km流域に散在した炭坑から流れ込む廃水によって、遠賀川の条件をきわめて悪くし水害を度々引き起し、明治39年~大正8年(第1期工事)昭和20年(補修工事)昭和24年以降(第2期工事)再さんにわたり改修工事が行われた。特に遠賀町は最下流にあって、遠賀川の影響を最もうけることや、遠賀川治水について古くからの貢献(彦山川にまで遠賀村が水利権を持っていたが、遠賀村の祖先が英彦山に植林したからだという語り伝え)があったと教えられている。大正15年8月八幡製鉄との遠賀川水利に関する覚書(当時島門、浅木両村)を初めとし神田川、山田川用水は遠賀農業の命脈として今日に受け継がれている。

(西川)

鞍手郡西川村(現在の鞍手町)より発して、剣、古月、中間、遠賀を経て遠賀川に合しつ、海に入るかつては農業水利として重要な河川であったといわれ、鉛毒水を運んで来るようになり遠賀農業にとってのガンとなってきた。明治初年新川が開かれ、木守に入るところで蓮川と2つに分れたという。

(三里松原)

北九州海岸には筑前八松原といって弓状砂丘海岸が続いているが、三里松原(岡の松原)はその中の最大のもので、西の岡垣町波津、東の芦屋まで約10kmに及び風と海水との力により第3紀層の地盤の上に砂がもりあがって砂丘をなしている。東西両端には、芦屋波津の海水沿場中央部には昭和14~15年芦屋飛行場が開かれ、その使用が高まっている。もともとこの松原は郡下の農作物の保護をする防風林として絶大なる効力をもっていたといわれ、この砂丘には、遠賀、岡垣、芦屋町の3ヶ町にまたがる130余haの砂丘農業が発祥したのである。



こうした遠賀川地域の歴史的背景の中で遠賀町が今や20世紀の新しい町づくりに邁進しようとしているのである。「郷土遠賀」発展への期待は大きい。夢はあまねく広がっている。町づくりは為政者のものでもなければ誰れのものでもない。住民1人1人の中にあるのである。

“躍動する遠賀町、農村遠賀としての発展、北九州広域都市圏域としての遠賀町(ベットタウン)いずれも過去、現在、未来につながって動いているのである。

ビジョンを練りこれを着実に実行する郷土のたくましいエネルギーが必要なのである。

“そうなのだ おのれの川の道筋さえ 知らぬものに  
どうして 祖国がうたえよう —「京浜の虹」より—

## 名所史跡



柴田直敏翁記念碑

### 神田川記念碑（大字老良）

寛政年間に島津村の与十郎等が相謀って樋開及び砂堰を垣生の塩田に設けた。これによって20haの水田が漸く旱害を免れるようになった。正に当時の一大事業であった。後年八幡製鉄がこの遠賀川から工業用水を取水するようになり、神田川を24ha約2400m余り延長し昭和5年に現在の神田川が開通したものである。

又西川が鉍毒水害によって灌漑不能となったので、西川関係の利水地域が大きく神田川に依存するようになり大正4年当時既に慣行として約600haの数字が記録されていた。（島津、広渡、鬼津、尾崎、別府、今古賀、木守、浅木）今では畑地灌漑用水にも利用され園芸の振興にも大きく寄与しており、山田川用水と共に遠賀町水利の命脈である。



往時の遠賀川渡し風景

### 柴田直敏翁記念碑（大字広渡）

翁は弘化4年広渡に生れ明治22年5月43才で島門村初代村長に就任した。

改修前の遠賀川は明治24年に大洪水を起し、疲弊の極に喘いでいた村の建て直しに精力的な努力を続け、村長退職後も郡会議員或いは郡農会議員として水害復旧或いは荒廃した農地の改革や耕地整理を促進せしめた功績は偉大である。記念碑は大正7年翁71才の時建立されたが数多い村自治功労者の代表的人物の一人である。



神田川記念碑

### 遠賀川の渡し風景（大字広渡）

旧遠賀郡12渡しの1つが、広渡一えぶりの渡しであった。特にこゝは県道を結ぶ重要な渡船で少々のことでは欠航出来なかった。

この写真は、新船就航の際の記念に村の駐在巡査や村代表者が紋服姿で乗船した時のもので謂わば進水式である。



添田寿一翁記念碑

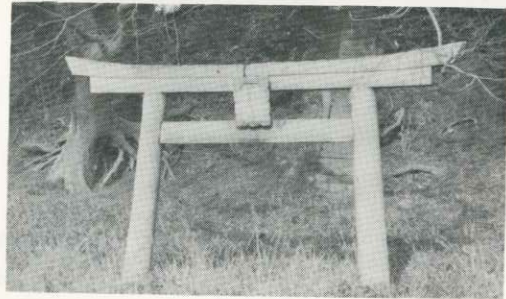
**添田寿一翁記念碑**（大字老良）

元治元年8月19日老良に生れる。東京帝国大学政治経済学部を修め明治17年に旧藩主黒田長成に従行して英独に3年間留学する。後大蔵省に入り大蔵次官となり各種銀行法の制定と実施に尽した。

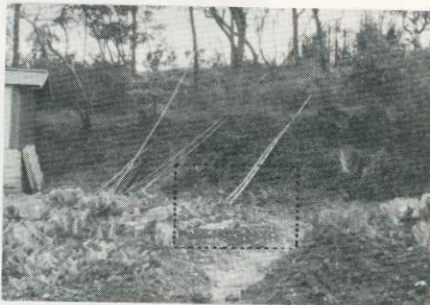
台湾銀行頭取、日本興業銀行総裁、鉄道院総裁となり、勲四等正四位に叙せられる。又帝国大学学習院高等商業学校等の教授を歴任した。老良小学校の建立者である。

**中山鳥居**（大字尾崎）

伊勢皇太宮の分神といわれ尾崎の旗生家によって祭神されたという、この鳥居は全国でも数少ない、中山鳥居（明神鳥居の形式で貫が通ってないのが特徴である）で岡山神社の鳥居と同じ形式のものであるという。



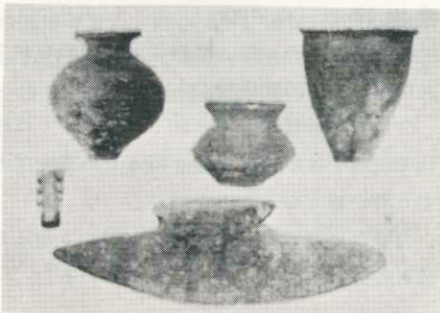
伊勢高田宮 中山鳥居



城の越遺跡

**城の越遺跡**（大字上別府）

高家城の越に往年土饅頭のような草原山があった。明治41年室木線敷設の際之を切崩したところ古銭、刀剣、人骨などを発見したという。組織的な調査は昭和27年に九州大学の鏡山教授により、又33年には明治大学の杉原壮介教授によって弥生式土器文化総合研究特別委員会の事業として行なわれた。断面からは立屋敷土器、下伊田式土器、城の越土器、須久式土器、土師器、須恵器等と共に土器以外の遺物として石鏃、石斧、砥石、石鐘、大型石庖丁、弓筈状異形骨製品その他の骨製品が数多く出土している。



出土品



浅木神社

### 浅木神社 (大字浅木)

祭神として日本武尊，相殿に応神天皇，素盞鳴尊が奉祀されている。

棟札には朝木八剣大明神と記してある。遠賀郡七旧社の一つである。

社伝に「齊明天皇も此山の麓に御船を泊し玉ひしに 明日御饌の飯を炊むとて 此山の木を伐りて薪とし船ごとに焼けるに 其香最も薫ばしければ天皇甚憂て玉ひ 今朝木の香はしき事朕が意に称へりと宜ひしより 此山を朝木山と名付し由」とある。

元禄8年黒田光之參詣して折節紅梅が盛りであったので一首の歌をよんで奉った。その後、継高も花盛りに放鷹のためこゝに逍遙して光之が愛でられたことをきき「狩衣の袖に移してかへらばや 浅木の梅の浅からぬ香を」と詠んでいる。

### 行満寺 (大字別府)

松林山と号し真宗本派本山西本願寺に属し，古えは仏照寺末という。中本山である。明応年間の開基で昔は天台宗であった。

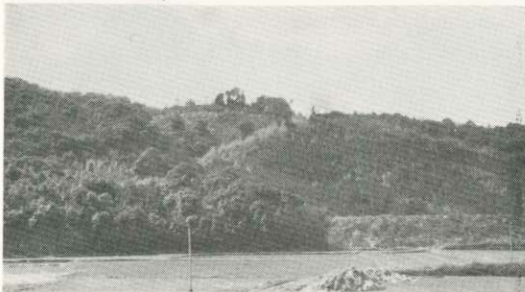
寺に木仏あり，三井寺の智証大師が嘉祥3年に入唐し天台に寄寓して智者大師の作を模刻したものといひ，のち平景清の守り本尊であったと伝えられている。又当時二世浄安祖師が親鸞上人の御影奉安の志深かったが，貧しくて之を購い求め得ず一夜夢の中で彼の木仏よりお告げを受けた。◇汝がかねて希える上人の御影を調達すべき資金は，門前の銀杏樹にあり速かに取りて其の資に充てよ。浄安驚いて出て見ると，不思議にも樹上に灯火があったので直ちによじのぼってみると素焼の注子の中に銀が入っていた。浄安は遂に多年の志望を達し得て，大いに仏恩に感喜したといういい伝えがある。今も木仏，油瓶，注子共に宝物として珍藏されている。



木  
仏



油瓶 注子と縁起書



愛嶽神社前跡

### 愛嶽神社 (大字尾崎)

尾崎高山にあった。祭神は車可遇突智命であり，火難除け牛馬の守護神である。

今は牟田神社に合祀されている。古くは相当な大社で旧藩中は乗馬の安全を祈るため藩士で遠騎参詣する者が絶えなかったという。

大祭には遠近の農民が牛馬を美しく飾って 100余頭も参詣していたとも伝えられている。





阿弥蛇仏座像

### 今泉神社 (大字別府)

別府字南にある。祭神は大倉主命、菟夫羅姫命、相殿に日本武尊を祭ってある。此の地は古く太宰府の官人が出張して政務を執行した所であるので別府という。元文3年に占部宿弥市太夫が記した社記1巻の中に八景が掲げてある。

社頭古松、南山秋月、松林山晚鐘、千代丸夜雨  
高瀬落鷹、今古賀夕照、遠賀川白帆、檣山積雪  
注 松林山とは行満寺のことである。社頭の古松は今はない。



千代丸城址

### 島門駅跡 (大字鬼津)

現在の堂塔寺という説が強い。藩政時代筑紫の国には太宰官道が発達して島門の駅が置かれ駅馬23頭舟2隻で遠賀郡の重要交通地点となった時代もあるという。

(古えの官道) 社崎—到津—独見—夜久—島門—  
(黒崎)

名切の宿—津日—席打—久弥—  
(内浦) (玄海) (古賀)

太宰府

### 西光寺 (大字浅木)

恵日山と号し浄土宗鎮西派に属し、本尊阿弥蛇仏座像(高さ 39.6cm)は恵心の作と伝えられている。古くは天台宗で浅木神社々僧の坊であったが、その後破壊されたのを明歴元年に欣誉という僧が再興して浄土宗に改めたものである。

旧郡の7旧社の一つに数えられており筑陽記にも西光寺麻生氏の菩提所なりと記されているが、今は古えを知るに足るものがないのは残念である。



今泉神社

### 千代丸城址 (大字別府)

別府千代丸の山上にあった。今せその跡を認められる。小早川隆景が筑前を所領するに至り、安増甚左エ門に命じて東筑前要害として築城したものである。隆景の養子秀秋の代になって国領を没収された外には別に同城として伝わるものがない。



島門駅跡



堂塔寺

弘法大師立教のお参りが  
多い堂塔寺



力間口古噴

**住吉神社** (大字鬼津)

丸の内鳥見山の下にあり祭神、底筒男神、中筒男神、表筒男神の3神を祭り古くは島門駅の渡し渡り上るところにて船の守護神といわれ古くは鬼津の産神で貞享元年甲子9月2日建立されたものとある。

**力間口古噴** (大字鬼津)

力間口の畑中にある古噴群で一帯は起伏の少ない平坦な畑地が南面して展げていたと想像される。旧居住地跡、須恵器井の破片などが近くの畑より数多く採集できるという。

現在この附近の木を切れば腹が痛むという昔からの言い伝えがある。



住吉神社

**高家天満宮** (大字上別府)

高家にあり祭神、菅原公を祭り、延喜元年辛酉、菅公筑紫に下り玉ひし時海上風悪くして御船を此に寄せられたり、其の時里民酒饌を献せしに公手づから香炉を下し賜はり且つ真筆紺紙に金泥もて法華経を書せたる者と和歌を与え、太宰府天満宮の分神といわれ元禄12年建立されたもので秋の大祭には遠近の人が多く参詣し郡内でも数少い神社の一つである。



高家天満宮



青面金剛

**小鳥掛青面金剛** (大字鬼津)

小鳥掛村中の疫病退散のため四方に神を祭ってこれを防いだという。現在あまり多く見られない貴重な金剛の一つで正徳4年天正月吉日に建立されたとある。



句碑

**句碑** (大字虫生津)

名詩人 吉岡禪寺洞氏 (詩書天の川主幹) が昭和18年頃、大東亜戦争戦歿者古野軍神 (真珠湾特別攻撃隊) の霊に参拝し、その時虫生津の地で古代をしのんでよんだ詩を句碑として、高田神社境内に本町、木守、片山武司氏の手で昭和43年4月建立されたもの。本町に数多い石碑の中で現代的代表作ともいえる。

「野の果に貝塚はあり 虫生津春日」

# 埋蔵文化財包蔵地調査一覧表

(郷土文化研究会資料)

種 別	名 称	所 在 地	時 代	地目及び土地所有者	範 囲 (m)	出 土 品 (個数)
貝 塚	舟 郷 貝 塚	大字鬼津3432-7	縄文中期	宅地一部畑 二村義正	面積1400 東西30 南北60	阿高式土器1片、後期土器1片
"	虫 生 津 貝 塚	" 虫生津295	" 後期	畑 古野寿一郎	地表面下 20cm	ヤマトシジミ、ハマグリ、石斧土器2ヶ
"	尾 崎 貝 塚	" 尾 崎	弥生前期	町道	貝層厚さ 30cm 南北4	シジミの貝層
厩棺墓外古墳	花園1~6号墳	" 上別府	"	山林 石松正人外	花園一円	厩棺墓、土器片、円噴、青銅製剣1刃外
住 居 地	花園住居地	" 上別府	"	畑 石松正人	25m <sup>2</sup>	石皿1ヶ、石斧1ヶ、石庖丁1ヶ、シジミ塊1ヶ
貝 塚	老 良 貝 塚	" 老 良	"	宅地一部畑広さ900m <sup>2</sup>		貝 塚
古 墳	高 田 宮 古 墳	" 虫生津	"	山林	南北20 経東西15 経神社地	
住 居 址	蟹喰弥生1-2号住居址	" 尾 崎	弥生後期	畑	東西経2 深さ1	大小の木炭片、黒曜石1片
古 墳	城の越1~2号墳	" 上別府	"	畑、山林		円墳
住 居 址	茨保弥生住居地	" 木 守	"	田	東西長30cm 南北長15cm	弥生後期土器数片
箱 石 棺	川端(貴船)古墳	" 虫生津	"	山林	東西13 南北経13	円噴(鉄鏡1塊)
支 石 墓	小古野1号墳	" 島 津	弥生前期	山林 島津区有	東西8 南北8 墳高1.9	
古 墳	小古野2号墳	" 島 津	古墳前期	山林 大場誠一郎	東西16 南北15 墳高1.2	
土 器 埋 葬 地	菜畑土器埋葬地	" 鬼 津	"	畑		黒曜石3ヶ、土師数1ヶ、石鏡1片、滑石塊1片
古 墳	蟹喰古墳	" 尾 崎	"	畑 松井 誠	東南6 南北6.2 高さ1.6	土器片
土 器 埋 葬 地	芝原古墳土器埋葬地	" 木 守	"	田	東西30 南北15	土師器10ヶ、須恵器10ヶ
"	慶ノ浦土器埋葬地	" 尾 崎	古墳中期	畑		土師器、須恵器
"	白草土器埋葬地	" 尾 崎	"	池畔	面積8m <sup>2</sup>	土師器、須恵器少量
古 墳	塚ノ元1~4号墳	" 島 津	古墳後期	山林 安永多喜生		円墳
"	丸 山 古 墳	" 島 津	"	山林 大場芳郎	東西8 南北5 墳高1.9	
"	塚ノ元5~6号墳	" 島 津	"	山林 矢野寿一郎		
"	杉ノ木土器埋葬地	" 鬼 津	"	畑		土師器、須恵器
"	杉ノ木古墳	" 鬼 津	"	畑 二村正人	南北4 東西5 墳高1	円墳
"	城ノ塚古墳	" 鬼 津	"	畑 松尾保氏		土師式土器片、須恵式土器片
土 器 埋 葬 地	矢倉土器埋葬地	" 鬼 津	"	山林		土師器、須恵器
古 墳	鬼津横穴1~10号墳	" 鬼 津	"	山林、畑 井口栄一		土師器、須恵器
"	力間口古墳	" 鬼 津	"	畑 太田 清		土師器、須恵器
土 器 埋 葬 地	力間口土器埋葬地	" 鬼 津	"	畑		須恵器
"	天神土器埋葬地	" 尾 崎	"	畑 松井 勝		須恵器
古 墳	先之野古墳	" 尾 崎	"	畑 門司重実		
"	南山1~4号墳	" 別 府	"	山林 和田弘夫外		須恵器外
住 居 址	別府住居址	" 別 府	"	畑		土師器片、須恵器片
土 器 埋 葬 地	千代丸土器埋葬地	" 別 府	"	畑 吉田 晃		土師器、須恵器片、石斧破片
製 造 所	野中須恵窯址	" 別 府	"	畑		黒曜石片1ヶ、熔融土器塊、石斧破片
古 墳	豊前坊1~2号墳	" 上別府	"	山林		
"	城ノ越3号墳	" 上別府	"	東西27 南北32		
"	花園横穴	" 上別府	"	山林		穴入墳1.1 入口巾1.3
"	浅木古墳	" 浅 木	"			500m <sup>2</sup>
土 器 埋 葬 地	虫生津古墳	" 虫生津	"	山林、畑		土師器、須恵器
古 墳	新屋敷古墳	" 虫生津	"	山林		
住 居 址	虫生津住居址	" 虫生津	"	果樹園 栗田敏蔵	広さ30m <sup>2</sup>	外土器10片、高規の脚部1ヶ
古 墳	城ノ越首塚	" 尾 崎	鎌倉時代	山林		
"	高塚古墳	" 尾 崎	古墳中期	山林		土師式土器片、須恵式土器片
住 居 址	高塚住居址	" 尾 崎	"	畑		土師器、須恵器

(注) 名所史跡欄の編集にあたっては、町郷土文化研究会の多大なる御協力を得たことを附記しておきたい。

# 町民生活

## 絵で見る町民の暮らし

<p><b>出生</b></p>  <p>県 1,000人当り 12.8人 町 " " 9.3人</p>	<p><b>死亡</b></p>  <p>県 1,000人当り 6.5人 町 " " 6.2人</p>	<p><b>結婚</b></p>  <p>県 1,000人当り 8.9人 町 " " 8.8人</p>	<p><b>離婚</b></p>  <p>県 1,000人当り 1.06人 町 " " 1.13人</p>
<p><b>家族数</b></p>  <p>県 1世帯当り 4.05人 町 " " 4.10人</p>	<p><b>転出入</b></p>  <p>県 1,000人当り 転入 7.32 " " 転出 7.72 町 1,000人当り 転入 8.39 " " 転出 7.85</p>	<p><b>水道</b></p>  <p>県 1世帯当り 290m<sup>3</sup> (年間) 町 " " 108m<sup>3</sup> ( " )</p>	<p><b>電話</b></p>  <p>県 30.66世帯に1台 町 24.71 " "</p>
<p><b>テレビ</b></p>  <p>県 1.35世帯に1台 町 1.28 " "</p>	<p><b>交通事故</b></p>  <p>県 1,000人当り 74.8人 町 " " 102.1人</p>	<p><b>火災</b></p>  <p>県 1,000世帯当り 2件 町 " " 5.5件 30日に1件</p>	<p><b>消防団員</b></p>  <p>県内市町村 住民121.6人に1人の団員 吏員151.3人に1人 (県内郡部(団員)57.1人に1人) 町 町民59.9人に1人</p>
<p><b>医師</b></p>  <p>県 1,000人当り 1.78人 町 " " 0.55人</p>	<p><b>警察官</b></p>  <p>町 町民3,018.6人に1人</p>	<p><b>自動車</b></p>  <p>県 2.81世帯に1台 町 4.9 " "</p>	<p><b>二輪車</b></p>  <p>県 3.18世帯に1台 町 2.49 " "</p>
<p><b>町予算</b></p>  <p>県内市町村 住民1人当り 24,591円 県内郡部 " " 18,431円 町 町民1人当り 18,929円</p>	<p><b>町税</b></p>  <p>県内市町村 住民1人当り 8,262円 県内郡部 " " 4,366円 町 町民1人当り 6,499円</p>	<p><b>町職員</b></p>  <p>県内市町村 住民175.7人に1人 県内郡部 " " 73.9人に1人 町 町民168.3人に1人</p>	<p><b>教員</b></p>  <p>県 小学児童28.4人に1人 中学児童22.9人に1人 町 小学児童25.8人に1人 中学児童23.6人に1人</p>

## あ と が き

この要覧は主として町勢の移り変わり及び動向をお知らせできるように種々腐心致したつもりですが形式、内容など不備な点多々あるかと思われますので、この点御配慮の上ご用くださるようお願いいたします。

また編集にあたり貴重な資料や助言を提供いただきました関係方面の方々に対し、深く感謝いたしますと共に今後一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(問い合わせ先)

遠賀町役場庶務課 電話 69-0646  
遠賀川局 1. 119番

昭和44年4月1日発行

### 遠賀町勢要覧

(合併40周年記念特集号)  
(町制施行5周年記念)

発行・遠賀町役場

編集・庶務課

印刷・稲田印刷所

